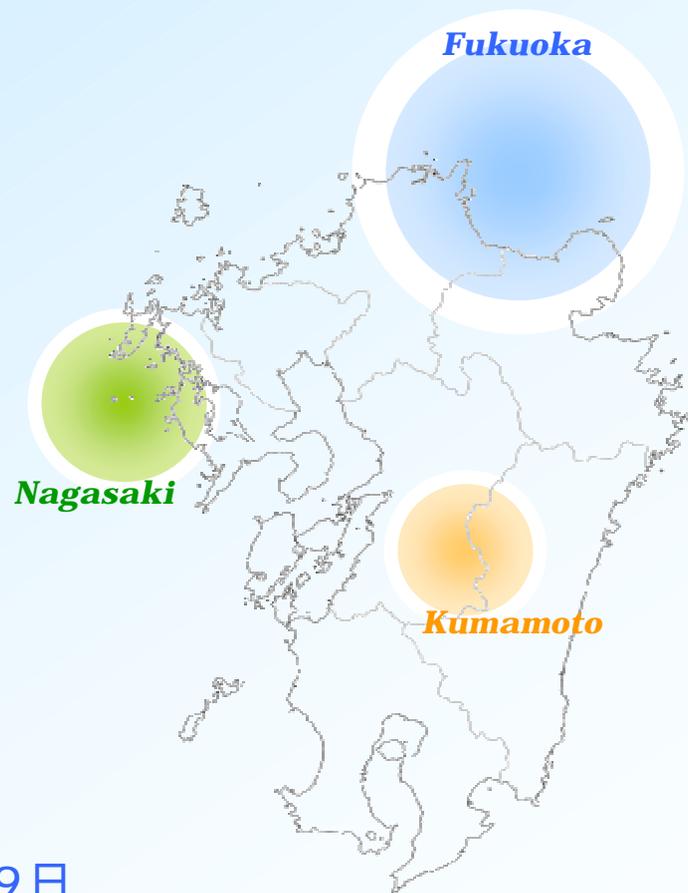


第2回

会社説明会

《 第二次中期経営計画 》



2007年10月9日

株式会社ふくおかフィナンシャルグループ

Part ふくおかフィナンシャルグループ
第二次中期経営計画

- 新しいグループ経営スタイル . . . 03
- 持株会社FFGの役割と機能 . . . 04
- 広域展開型地域金融グループ . . . 05
- 【 FFG第二次中期経営計画 】
- FFGの課題 . . . 06
- 新中計の目線 . . . 07
- グループ3行のテーマ . . . 08
- 経営効率の追求 . . . 09
- FFGの営業戦略 . . . 10
- 統合シナジー効果 . . . 11
- FFGの資本政策 . . . 12
- FFGの配当政策 . . . 13

本日のスピーカー 取締役会長兼社長 谷 正明

Part 参考資料

- FFG第二次中期経営計画の概要 15
- 経営目標 16
- 各行の中期経営計画 17～22
- 各行の成長シナリオ 23～25
- コストコントロール 26
- 利益計画 27
- 国内貸出金計画 28
- 預金・NCD計画 29
- 有価証券投資計画 30
- 非金利収益 31
- 営業面の計数目標 32
- 経費計画 33
- 開示不良債権 34
- 自己資本比率 35
- リスク資本配賦 36
- FFGの資本構成 37
- マーケットシェア 38

Part マクロ経済指標

- 全国・九州の
マクロ経済 40
- マクロポテンシャル 41
- 貸出金需要 42
- 地価動向 43
- 設備投資・住宅投資 44
- 生産・貿易 45
- 消費・公共工事 46
- 企業倒産・雇用 47
- 北部九州のトピックス 48

出席者

取締役	吉戒 孝
執行役員経営企画部長	吉田 泰彦
経営企画部副部長	横田 浩二

Part

ふくおかフィナンシャルグループ
第二次中期経営計画

新しいグループ経営スタイル

- 顧客に対しては3つの顔（地域へのコミットメント）：福岡銀行、熊本ファミリー銀行、親和銀行
- 持株会社FFGが一元的に本部企画機能を持ち、グループ共通の経営インフラを3行に提供
- 3ブランド・シングルプラットフォーム体制

グループ内

シングルプラットフォーム（一体の経営体制・共通のインフラ）



インフラの共有

一体の経営体制

一つの経営戦略

顧客接点の多様性

顧客基盤の拡大へ

対顧客

マルチブランド
(3つの銀行)

持株会社FFGの役割と機能

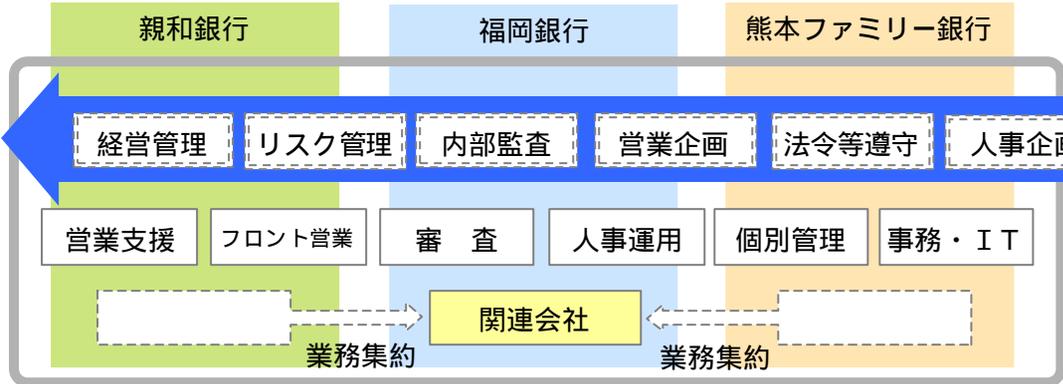
- FFG（持株会社）には『グループ全体最適』を達成するために必要な役割と機能を集約
- 子銀行は、FFGから提供される機能を活用し、高いパフォーマンスを発揮（経営戦略目標の完遂）して『部分最適』

FFGの役割・機能

- 経営管理機能（経営戦略、財務、規制対応、資本政策）
- リスク管理機能（統合的リスク管理、自己資本管理）
- 債務者格付審査機能（共通目線による債務者格付審査）
- 内部監査機能（業務監査・リスク監査・与信監査）
- 営業企画機能（戦略・戦術、商品・サービス開発）
- クオリティ企画機能（法令等遵守・顧客保護等管理態勢）
- 人事企画機能（人事制度、人材育成、人員配置）

提供する機能

子銀行の役割・機能



レベル・目線の統一
本部のスリム化・一元化
効率性の確保

グループ全体最適

グループ3行の
ベストプラクティスを
追及

部分最適

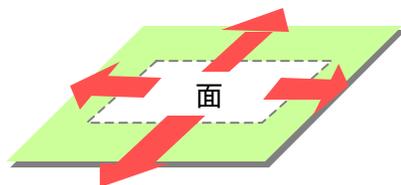
FFGのプラットフォーム
を活用した独立の
内部統制、内部管理態勢

広域展開型地域金融グループ

- スケールメリットを活かして、質の高い商品・サービスを提供することにより顧客基盤を拡大
- 九州一円を『面』と『線』の展開で継ぎ目なく繋ぐ広域展開型のビジネスモデル

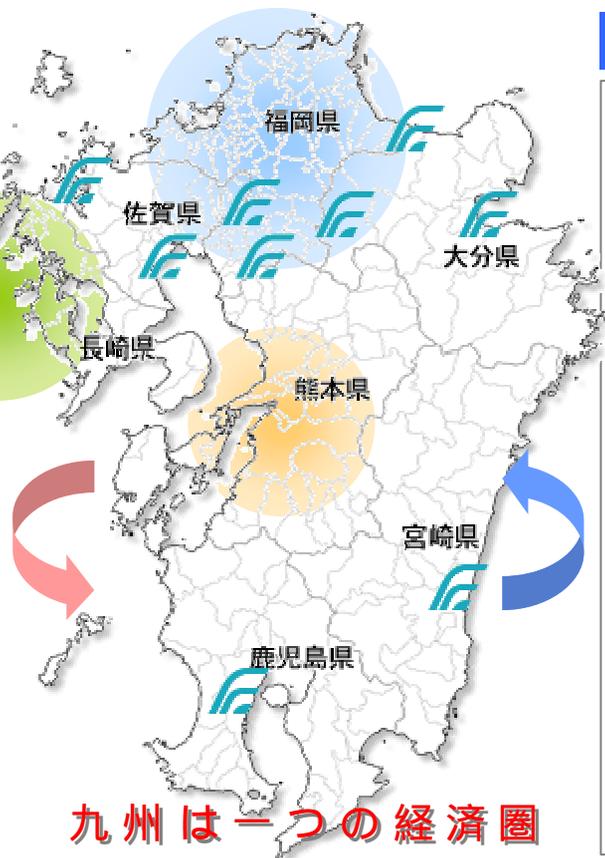
『面』の展開

- ✓ マザーマーケットである福岡県・熊本県・長崎県の徹底深堀（地域一番行へ）
- ✓ 佐賀県は福銀・親和の挟撃により面でキャッチアップ



北部九州の稠密な店舗ネットワーク

	福岡	熊本	長崎	佐賀	合計
福銀	149	1	2	4	156
熊ファミ	4	68	2	-	74
親和	22	1	100	6	129
合計	175	70	104	10	359



『線』の展開

- ✓ 福銀の他県店舗チャンネルを拠点とした営業ネットワーク
- ✓ 福岡からの距離的・時間的優位性を活かした本部フロント部隊によるリモート展開



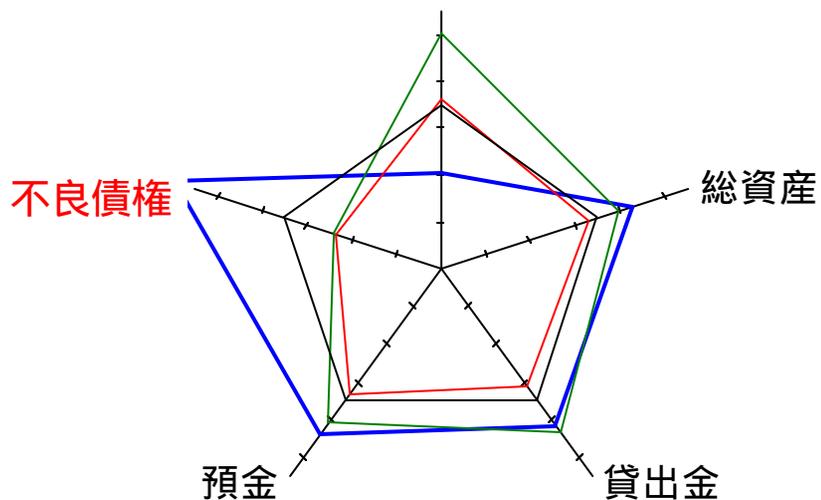
南九州3県・本州の店舗ネットワーク

	大分	宮崎	鹿児島	本州	合計
福銀	3	1	1	5	10
熊ファミ	1	-	3	1	5
親和	1	-	-	4	5
合計	5	1	4	10	20

- 規模では地域金融グループ最大級でスタート
- FFGの課題：経営効率を高めて「収益性」「健全性」を向上

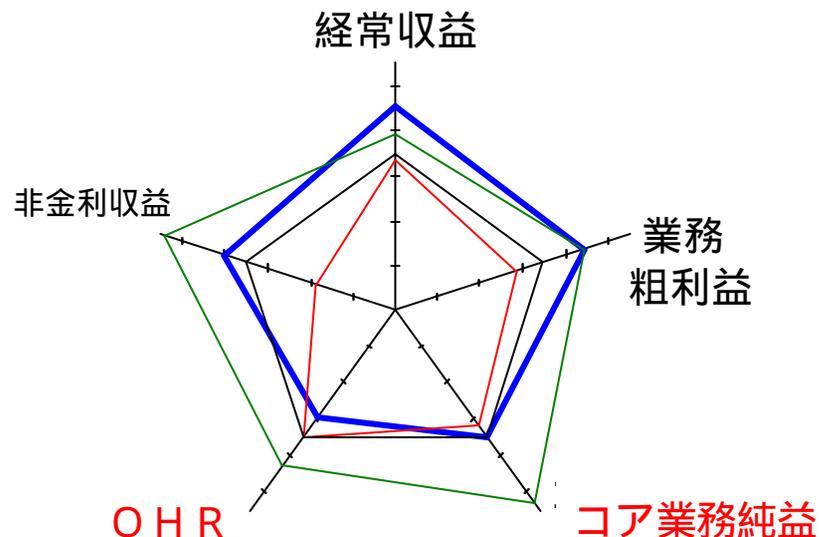
規模の比較

Tier 資本



FFG ————
 横浜 ————
 千葉 ————
 5行平均 ————

収益力の比較



19/3期の大手5行（G）平均を1としてチャート化
 （FFG、横浜、千葉、ほくほく、静岡）
 FFGのTier 額は（3行単純合算 - のれん約1,800+ファイナンス分）

FFG第二次中期経営計画：新中計の目線

- 目指すグループ像：規模に見合う内容を備えた国内トップクラスの地域金融グループ
 【目指す姿】コア業務純益1,200億円以上、連結当期純利益650億円以上、不良債権比率1%台

第二次中期経営計画

FY06（単純合算）

コア業務純益	899億円
当期純利益	917億円
ROE	-
OHR	56%
総資産	11.6兆円
総貸出金	7.8兆円
総資金	10.4兆円
不良債権比率	4.90%
自己資本比率	-

第二次中計最終年度（FY09）

コア業務純益	1,000億円
連結当期純利益	500億円
連結ROE	7%台半ば
OHR	50%台前半
総資産	12兆円
総貸出金	8.4兆円
総資金	10.7兆円
不良債権比率	2%台
自己資本比率	9%程度

FFG 5年後の姿

コア業務純益	1,200億円以上
連結当期純利益	650億円以上
連結ROE	8%台半ば
OHR	40%台
総資産	13兆円
総貸出金	9兆円台半ば
総資金	11兆円台半ば
不良債権比率	1%台
自己資本比率	10%台

規模に見合う内容を備えた
国内トップクラスの地域金融グループ

飛躍への助走ステージ

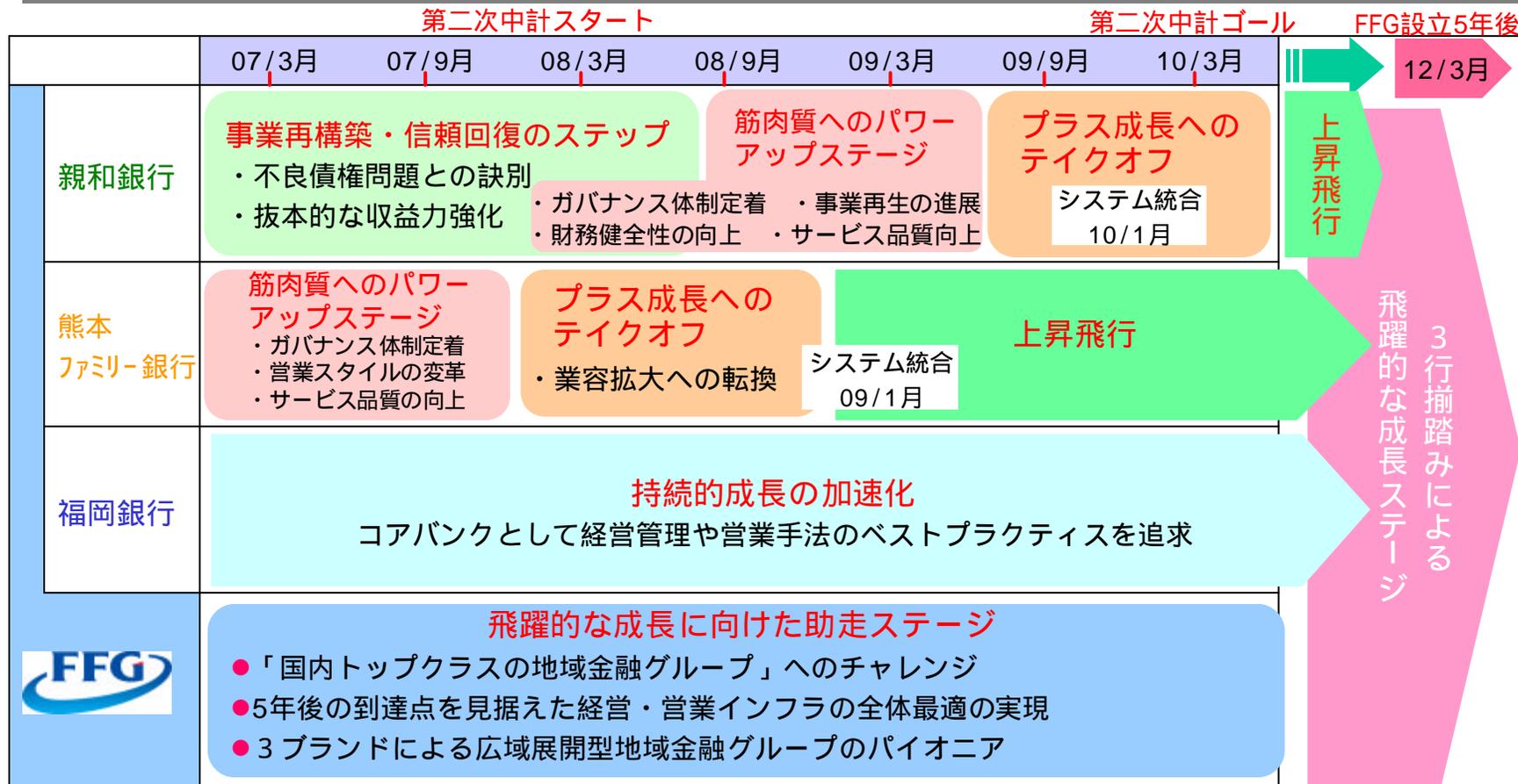
飛躍的成長ステージ



FFG第二次中期経営計画：グループ3行のテーマ

【FFG第二次中計の位置づけ】

5年後の到達点（目指す姿）に向けた助走ステージ期間、経営管理・営業インフラの体制整備期間



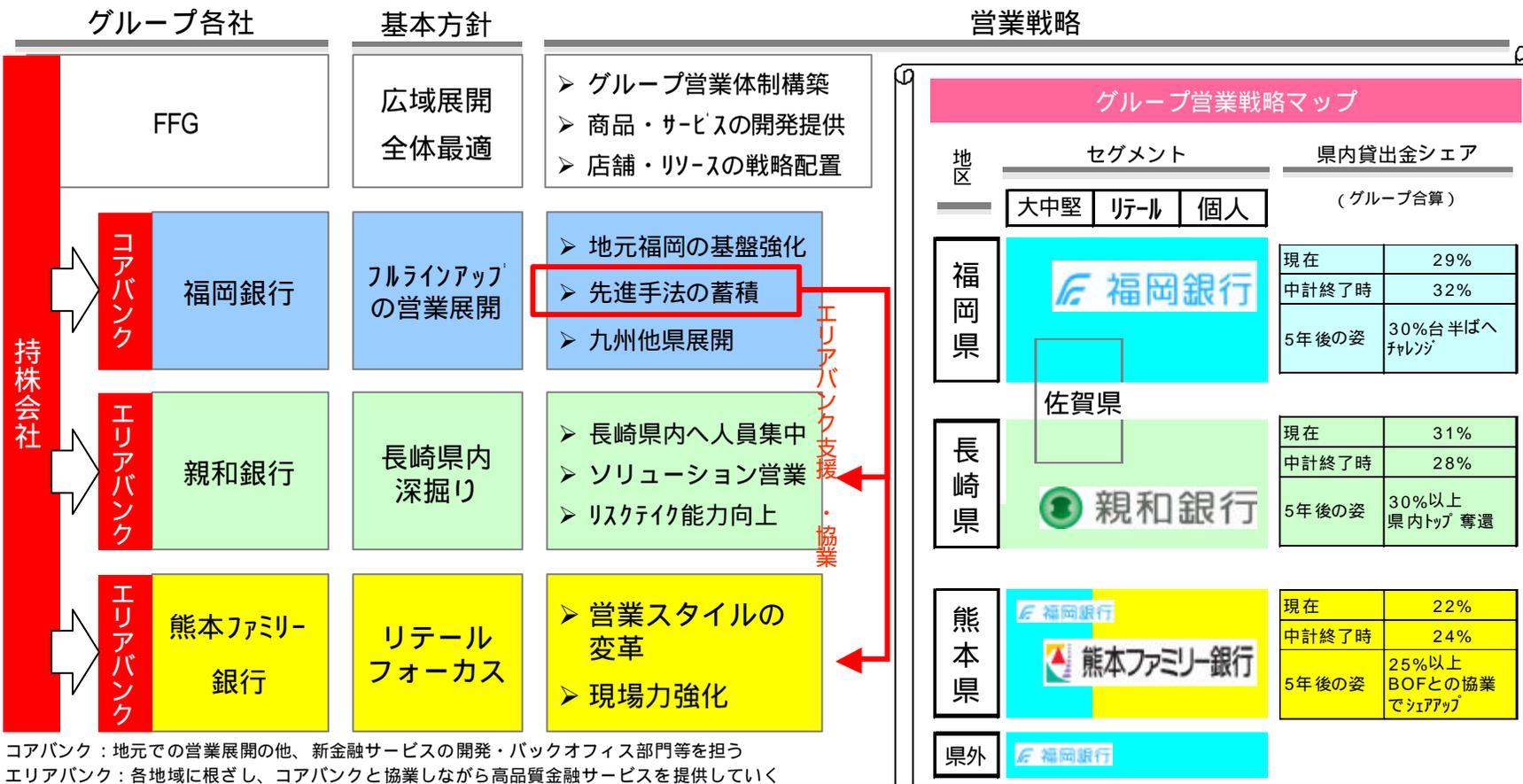


FFG第二次中期経営計画：経営効率の追求

- グループ経営の効率化を図り、店舗再編・人員の再配置を実施
- ストラテジックソーシングで 120億円の経費削減を実施、経費は50億円減少



- コアバンク + エリアバンクのビジネスモデル
- 持株会社 F F G に営業企画機能を集約し、グループ全体最適となる戦略を展開





FFG第二次中期経営計画：統合シナジー効果

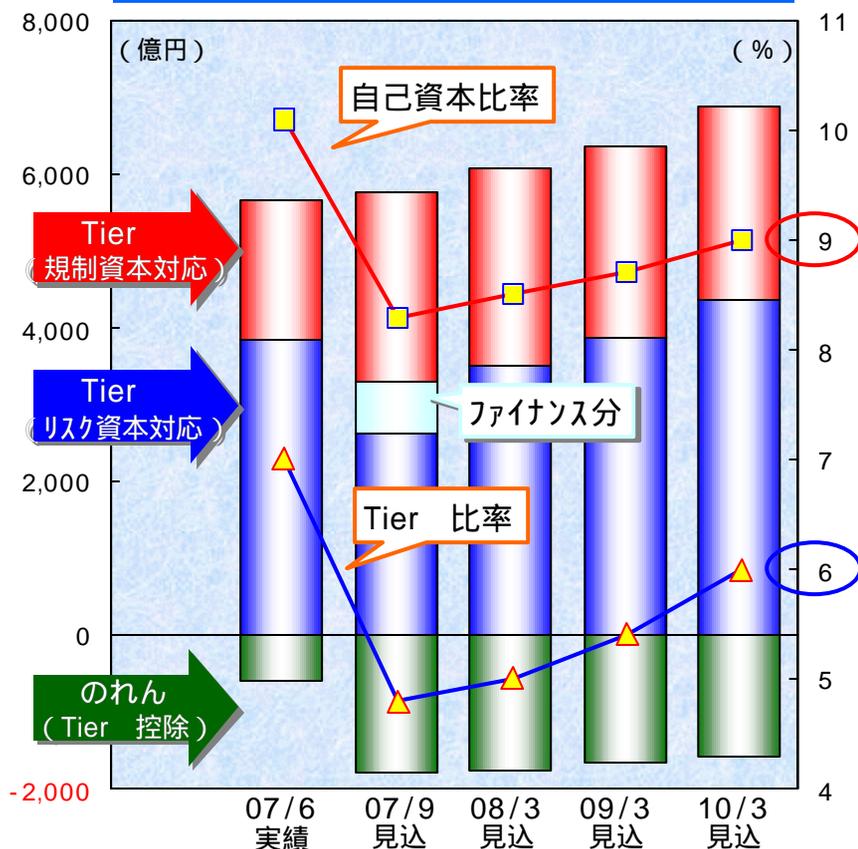
- 08-09年度の2年間に実現を見込む収益シナジーはグループ合計で117億円
- うち実現性の高いコスト削減によるシナジー効果は56億円。

	3行合計		親和銀行	熊本ファミリー	福岡銀行
シナジー合計	117億円		55億円	40億円	22億円
■ 中小企業向け商品	・BOFスコアリング商品投入	9億円	3億円	6億円	10億円 ・熊本営業部、長崎支店の協業シナジー
■ ソリューション	・医療業 ・収益物件	25億円	6億円	9億円	
■ デリバティブ	・BOF商品投入	4億円	3億円	1億円	
■ 住宅ローン	・商品性向上 ・販売ノウハウ	6億円	3億円	3億円	
■ 資産運用商品	・売れ筋商品投入 ・店頭営業強化	16億円	8億円	8億円	
■ 経費	・ストラテジックリーシング	56億円	32億円	12億円	12億円

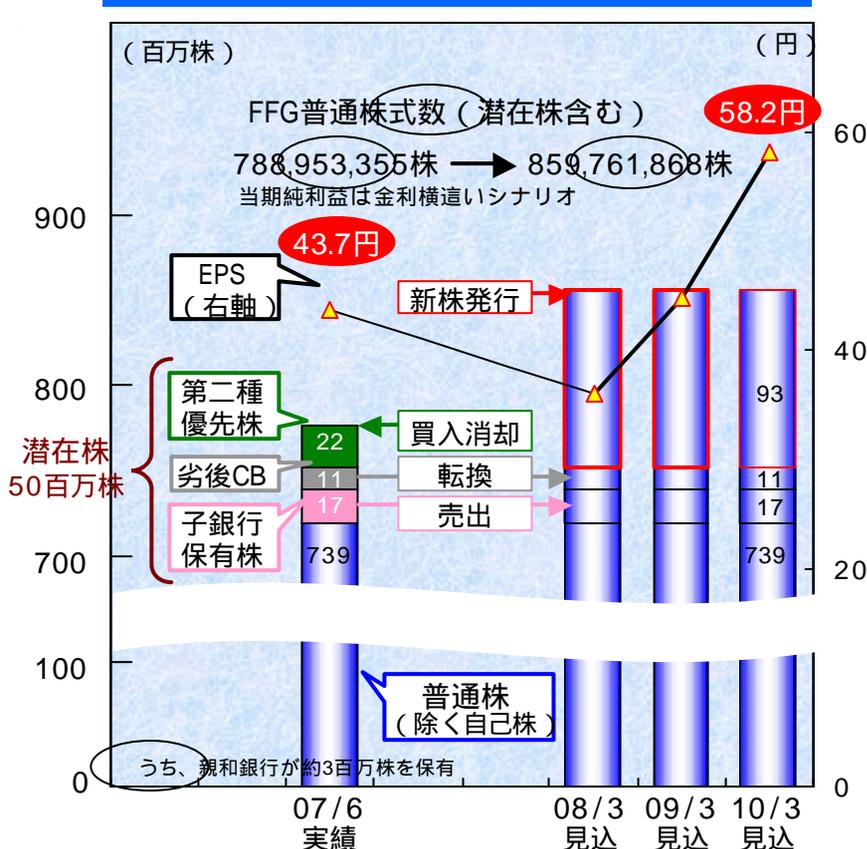
FFG第二次中期経営計画：FFGの資本政策

- エクイティファイナンスの実施および潜在株式（第二種優先株式）の整理
- 中計最終年度目安：自己資本比率9%、Tier 比率6%は利益の積上げにより確保可能な水準

自己資本比率の推移



FFG普通株式数とEPSの推移



- FFGの配当政策は、業績連動配当の枠組みを維持することで株主の期待に応える
- 現状の配当テーブルを維持することで、地銀セクターで上位の配当性向及び1株あたり配当金を還元する

FFGの新中計期間における配当方針

【業績連動配当の実施】

- **現在の業績連動配当（テーブル）を維持**
利益水準の増加に伴い、テーブル数を追加
- **FFG連結当期純利益の水準に応じて1株あたり配当金を段階的に設定**
- 「配当テーブル」をベースに配当金を支払う

【配当テーブル】

FFG連結当期純利益水準	配当金目安
～250億円以下	7円～
250億円～300億円以下	8円～
300億円～350億円以下	9円～
350億円～400億円以下	10円～
400億円～450億円以下	11円～
450億円～500億円以下	12円～
500億円～550億円以下	13円～
550億円～	14円～

FFG連結当期純利益はのれん償却後の利益

FFG配当方針の考え方

【配当政策の考え方】

- ・グループ配当性向目安 = 20%超

$$\text{グループ配当性向} = \frac{\text{FFGの配当総額}}{\text{FFG連結当期純利益（のれん償却後）}}$$

- ・1株あたり配当金目安

FFG連結当期純利益（金利横ばい）	1株あたり配当金	配当性向	
07年度	310億円	9円	25.0%
08年度	385億円	10円	22.3%
09年度	500億円	13円	22.4%

FFG連結当期純利益（金利上昇）	1株あたり配当金	配当性向	
07年度	310億円	9円	25.0%
08年度	430億円	11円	22.0%
09年度	600億円	14円	20.1%

Part

參考資料

第二次中期経営計画

期間：2007年10月～2010年3月

FFG	FFG		戦略体系	施策・戦術の概要
基本方針			営業戦略	<ul style="list-style-type: none"> 商品・マーケティング開発の一元化 マルチブランド（3ブランド）による広域展開型営業 グループチャネルの戦略的活用
■ FFGカルチャーの創造 ■ 統合シナジー効果の早期実現と最大化 ■ グループ一体経営体制の確立				リスクマネジメント戦略
			事務戦略	<ul style="list-style-type: none"> 事務規定・処理体制の共通化 事務バックオフィス集約による効率化
				IT戦略
			親和銀行	人財戦略
	クオリティ戦略	<ul style="list-style-type: none"> グループコンプライアンス態勢の強化 ブランド構築によるグループ一体感の醸成 		



FFG第二次中期経営計画 経営目標

		金利横這い(メインシナリオ)		
		FY07	FY08	FY09
目標指標	連結当期純利益	310億円	385億円	500億円
	連結不良債権比率	4%台後半	3%程度	2%台半ば
	連結ROE	5%台半ば	6%程度	7%台半ば
	3行合算OHR	50%台後半	50%台半ば	50%台前半
その他指標	自己資本比率	8%台半ば	8%台後半	9%程度
	Tier 比率	5%程度	5%台半ば	6%程度

金利上昇	
FY09	
	600億円
	同左
	8%台半ば
	40%台後半
	9%程度
	6%程度

		【金利横這いシナリオ】		
		FY07	FY08	FY09
市場金利	O/N	0.50%	0.75%	
	3M	0.85%	0.95%	
	1Y	1.00%	1.15%	
	5Y SWAP	1.50%	1.55%	
	10Y SWAP	1.85%	1.90%	
基準金利	普通預金	0.20%	0.30%	
	1年定期預金	0.35%	0.45%	
	短期プライム	2.375%	2.625%	

3行合算	コア業務純益	774億円	910億円	1,000億円
	当期純利益	270億円	465億円	575億円
	不良債権比率	4%台後半	3%程度	2%台半ば
	OHR	50%台後半	50%台半ば	50%台前半
	中小企業等貸出金	6兆円	6.2兆円	6.4兆円
福岡銀行	コア業務純益	625億円	685億円	750億円
	当期純利益	230億円	360億円	405億円
	不良債権比率	2%程度	1%台後半	1%台半ば
	OHR	50%台半ば	50%台前半	40%台後半
	中小企業等貸出金	4.1兆円	4.3兆円	4.5兆円
熊本 フアミ 銀行	コア業務純益	81億円	95億円	105億円
	当期純利益	5億円	30億円	70億円
	不良債権比率	4%程度	3%台前半	2%台後半
	OHR	60%台後半	60%台半ば	60%台前半
	中小企業等貸出金	8,500億円	8,800億円	9,000億円
親和銀行	コア業務純益	68億円	130億円	145億円
	当期純利益	35億円	75億円	100億円
	不良債権比率	15%台半ば	7%程度	5%台後半
	OHR	60%台後半	60%台後半	60%台前半
	中小企業等貸出金	1.1兆円	1兆円	1兆円

	1,170億円
	680億円
	同左
	40%台後半
	同左
	905億円
	495億円
	同左
	40%台前半
	同左
	110億円
	75億円
	同左
	60%台前半
	同左
	155億円
	110億円
	同左
	60%台前半
	同左

		【金利上昇シナリオ】		
		FY07	FY08	FY09
市場金利	O/N	0.75%	1.25%	1.75%
	3M	0.95%	1.45%	1.85%
	1Y	1.15%	1.65%	2.00%
	5Y SWAP	1.55%	2.00%	2.30%
	10Y SWAP	1.90%	2.25%	2.55%
基準金利	普通預金	0.30%	0.50%	0.70%
	1年定期預金	0.45%	0.65%	0.80%
	短期プライム	2.625%	3.125%	3.625%

- ・普通預金感応度：O/N金利に対し40%
- ・1年定期感応度：1年TIBORに対し40%
- ・短期プライムレート：3M TIBORに対し100%

* 親和銀行のFY07損益は下半期のみ

** 不良債権比率は部分直接償却後

- サービス品質の向上を顧客基盤の拡大へ繋げる中計
- グループコアバンクとして「フルラインアップの営業展開」を実現

中期経営計画2008（期間：2007年10月～2010年3月）

目指す銀行像			戦略施策体系		
「期待を超える銀行」			<p>営業戦略</p> <p>リスクマネジメント戦略</p> <p>事務戦略</p> <p>IT戦略</p> <p>人財戦略</p> <p>クオリティ戦略</p>	フルラインアップの営業展開 競争力ある商品・サービスの総合マーケティング展開	
基本方針				リスクとリターンの統合コントロール体制の構築 統合的リスク管理体制の構築	
「知と行動の総力展開」				利用者満足度を高める事務改革 グループの事務共通化	
目標指標（2009年度）				営業戦略を支えるIT基盤の構築 システム基盤の機能強化	
指 標	金利横這	金利上昇		人的資本の充実と戦略的配置 研修施設を活用した人財育成と営業戦力強化	
コア業務純益	750億円	905億円		企業カルチャーの変革 コンプライアンス態勢の強化	
当期純利益	405億円	495億円			
不良債権比率	1%台				
O H R	40%台後半	40%台前半			
中小企業等向貸出金残高	4兆5000億円				

- グループコアバンクとして「フルラインアップの営業展開」を実現
- 大中堅からリテール、九州全域まで含めたカバーセグメントの拡大

営業基盤強化に向けた取組み

～福岡県・九州地区における営業基盤の拡大～

地元福岡県における営業基盤の確立	
商品・マーケティングの徹底強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 商品性の向上 ✓ コンサル型営業の確立 ✓ DB機能の拡充
営業拠点・チャネルの再構築	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建替え・リニューアルによる店舗利便性の向上 ✓ フルバン戻し・空白地対策 ✓ 「ハード面」「ソフト面」
顧客との関係強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中小(大)企業以上とのリレーション強化 ✓ リテール法人営業体制の構築 ✓ 個人版RMの再構築
九州地区営業戦略	
地区戦略の新展開	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州県外地区の強化 ✓ 熊本・長崎地区戦略 ✓ ソリューションメニューの充実 ✓ 熊ファミ・親和との連携

セグメント別営業体制の展開

カバーセグメントの拡大

～あらゆる顧客に対し、属性・ニーズに応じた最適な金融サービスを提供できる営業体制を構築～

法人セグメント	大企業 中堅企業 中小(大)企業	<ul style="list-style-type: none"> □ソリューション営業の新展開 業種別営業推進、CFに着目した融資モデル □投資銀行ビジネスの強化 M&A、証券化ビジネス
	リテール法人	<ul style="list-style-type: none"> □ダイレクトチャネルと営業店の協業 リモート営業と対面営業の融合 □リテールカバー領域の拡大 テレマーケティングで見込み先発掘
	公共公社	<ul style="list-style-type: none"> □公共公社ソリューション展開 交付税削減、財政融資資金圧縮 民間借入需要増
個人セグメント	住宅ローン 消費性ローン	<ul style="list-style-type: none"> □マーケティング力の強化 データベース・CRM高度化、ネットチャネルの充実 □店頭・渉外営業の戦力強化
	預り資産販売 クレジットカード	<ul style="list-style-type: none"> □ライフステージ別営業戦略 □カードビジネスの拡大

- 強みである「親しみやすさ」「Face to Face」を活かしたリテール営業徹底
- 不良債権最終処理と収益V字回復の実現 地域一番行への基礎固め

中期経営計画2008（期間：2007年10月～2010年3月）

目指す銀行像			戦略施策体系		
「地域になくはない銀行」			<div style="background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">営業戦略</div> <div style="background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">リスクマネジメント戦略</div> <div style="background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">事務戦略</div> <div style="background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">IT戦略</div> <div style="background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">人財戦略</div> <div style="background-color: #ffb6c1; padding: 5px;">クオリティ戦略</div>	営業スタイルの変革 Face to Face の強みを活かしたリテールフォーカス	
基本方針				リスクマネジメント体制の確立 信用リスク管理の更なる強化	
「攻めの経営・規律ある経営」				福岡銀行との事務統一 グループでの事務集中化・効率化の実現	
目標指標（2009年度）				福岡銀行とのシステム統合 システムリスク管理体制の強化	
指 標	金利横這	金利上昇		人的資本の充実と戦略的配置 グループ力を活用した人財育成	
コア業務純益	105億円	110億円		企業カルチャーの変革 コンプライアンス態勢の強化	
当期純利益	70億円	75億円			
不良債権比率	2%台				
O H R	60%台前半	60%台前半			
中小企業等向貸出金残高	9,000億円				

- 「営業スタイルの変革」 Face to Faceを活かした県内リテールフォーカス
- リスクテイク体制を整備し、融資商品投入

リスクテイク体制整備

- 格付・審査体制の整備
- ローンレーディング導入
 - 貸出案件の各条件を点数化し、案件の質を定量的に評価
 - 審査目線の均質化
- リスクマネジャー制度導入

営業店

リスクマネジャー

- 案件掘り起し
資金ニーズ発掘、提案アドバイス
- 案件組成サポート
案件組み立て、収益・保全確保アドバイス
- 資料作成指導
稟議資料等の作成指導・研修
- 現地審査
決裁権限を有し、現地審査

商品投入

ターゲット選定		商品
年商5億円以上 他行優良先	900先 600億円	アクティブローン
ミドルリスク (低格付先)	3,750先 400億円	パワーアップローン
年商5億円未満 リテール法人	8,400先 230億円	ベストリリーフ (スコアリング商品)

住宅ローン強化

チャネル

ローンプラザ拡充

- 熊本県内2ヶ店新設（県北・熊本市東部）
県内4ヶ所体制（本店・八代）
- 業者営業専担者増員（6名 12名）

商品性

住宅ローン審査のスピードアップ（08年1月）

- 事務スキームをシステム化（ローンBPR）
- 福銀の不動産調査会社で担保評価 } 当日or翌日
➢ 福銀の保証会社が保証 } 審査結果回答

消費性ローン販売強化

対面チャネル

銀行代理店
(業務委託)

非対面チャネル

(業務委託)

熊本ファミリー銀行



個人渉外

福岡銀行

仮申込受付 保証依頼
審査結果通知



【DBセンター】

熊本ファミリー銀行

正式申込 融資実行



【営業店】

- 不良債権問題との訣別と抜本的な収益力強化を実現し、新たな成長ステージへ
- 長崎県内への経営リソース集中 県内トップバンクを目指す

中期経営計画2008（期間：2007年10月～2010年3月）

目指す銀行像			戦略施策体系		
「地域と共に発展・成長する銀行」			<div style="background-color: #FFD700; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">営業戦略</div> <div style="background-color: #FFD700; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">リスクマネジメント戦略</div> <div style="background-color: #FFD700; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">事務戦略</div> <div style="background-color: #FFD700; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">IT戦略</div> <div style="background-color: #FFD700; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">人財戦略</div> <div style="background-color: #FF69B4; padding: 5px;">クオリティ戦略</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">抜本的な収益力強化 県内顧客基盤の深掘りによる長崎トップバンクの実現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">不良債権問題との訣別 統合的リスク管理体制の構築</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">福岡銀行との事務統一 グループでの事務集中化・効率化の実現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">福岡銀行とのシステム統合 システムリスク管理体制の強化</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">人的資本の充実と戦略的配置 グループ力を活用した人財育成</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">企業カルチャーの変革 コンプライアンス態勢の強化</div>	
基本方針					
「変革と進化」					
目標指標（2009年度）					
指標	金利横這	金利上昇			
コア業務純益	145億円	155億円			
当期純利益	100億円	110億円			
不良債権比率	5%台				
O H R	60%台前半	60%台前半			
中小企業等向貸出金残高	1兆円				

- 「営業店が営業に専念できる体制構築」「長崎県内営業店の戦力強化」「売れ筋商品・販売ノウハウの投入」の3本柱。 オーソドックスかつ実現性の高い施策を強力に推進

《営業戦略基本方針》 長崎県内の深掘り

営業への集中

- 不良債権専門部署の新設
管理業務を営業店から分離
- 非効率事務の本部集中、アウトソーシング
ATM管理、諸届事務
- 審査体制再構築
リスクマネージャー、ローングレーディング等の営業店サポート強化
- 店質・行員のミッション明確化
福銀の営業スタイル移植

戦力の増強

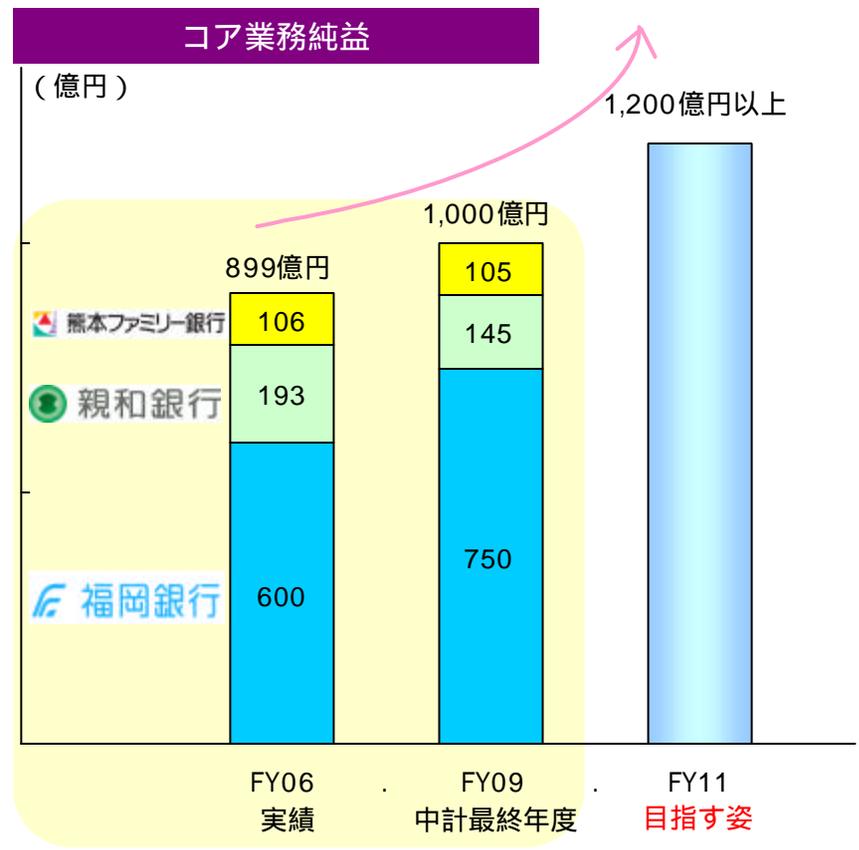
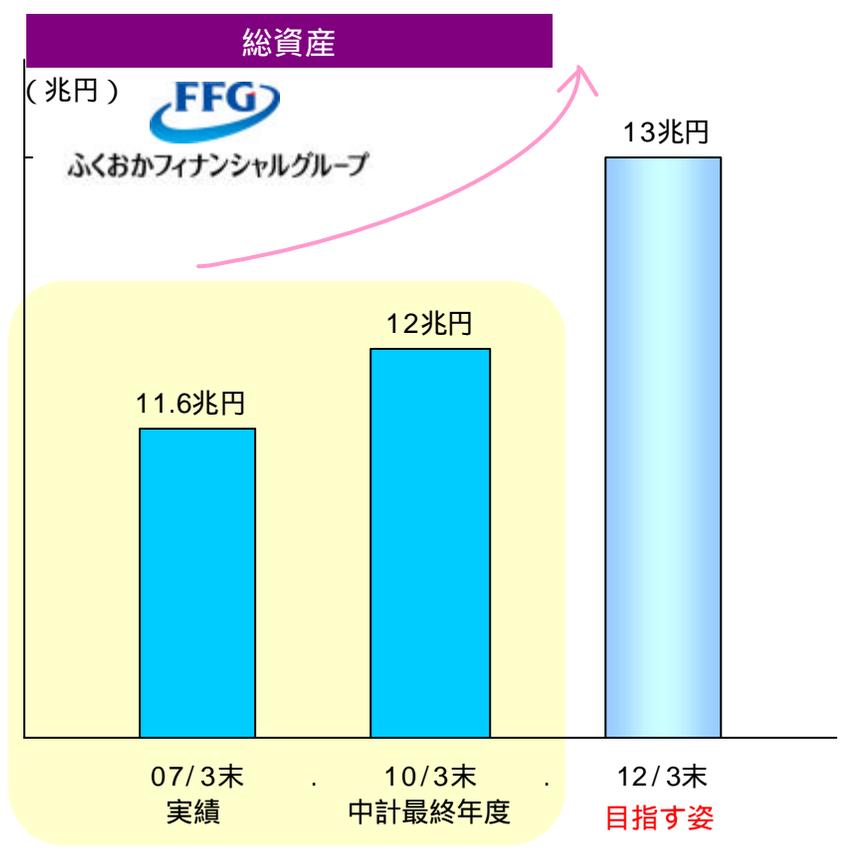
地区	リソース状況	方針
長崎県内	五島地区他 12店 90人	シェア維持 効率化
	県北地区 34店 390人	
	県央地区 12店 150人	人口増地区 新規開拓注力
	県南地区 39店 450人	県内最大マーケット 法人営業強化
県外	福岡地区 22店 270人	統廃合・集約化 剥落防止
	その他県外 12店 120人	
本部	480人	業務棚卸・効率化

再配分

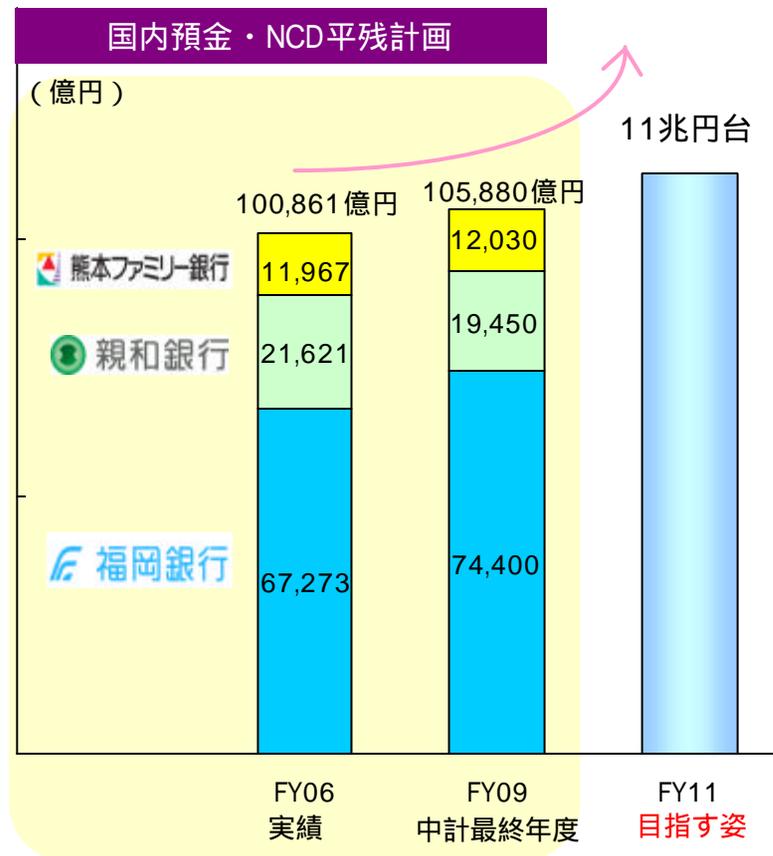
商品・ノウハウ

- 法人向定型商品
リテール向スコアリング商品、ミドルリスク先向け商品
- ソリューション営業
医療業、収益物件の推進ノウハウ
デリバティブ推進
- 店頭営業強化
福銀で実績のある「チーム営業体制」の導入
売れ筋商品の投入
- 消費性ローン
福銀商品投入、DBセンター活用
- 住宅ローン
商品性向上（ネット手続、保障付）
業者対策強化

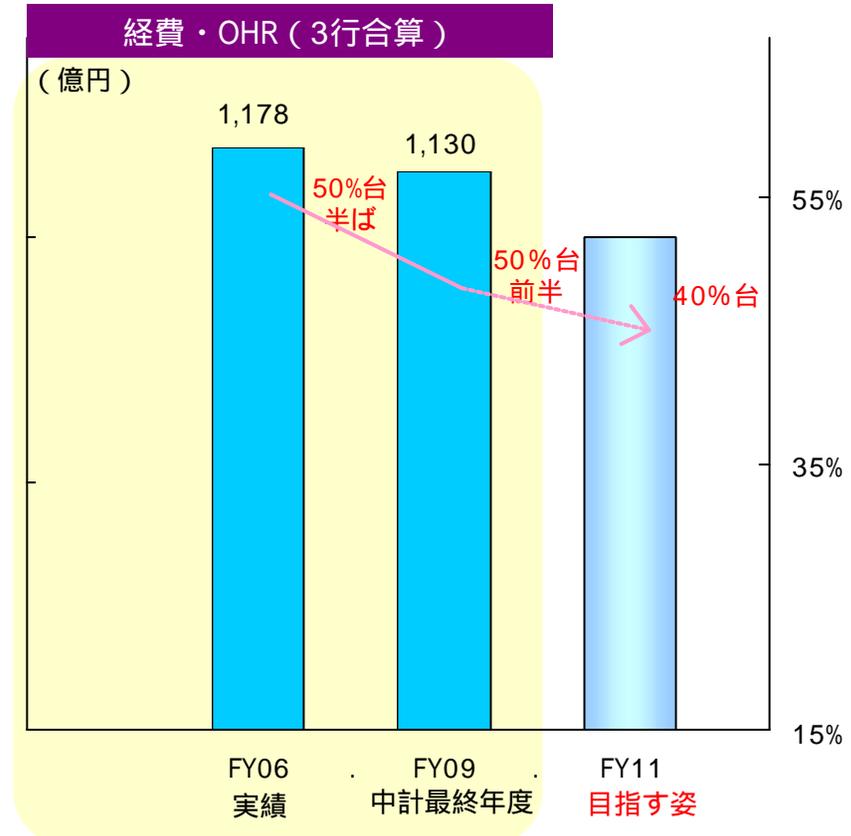
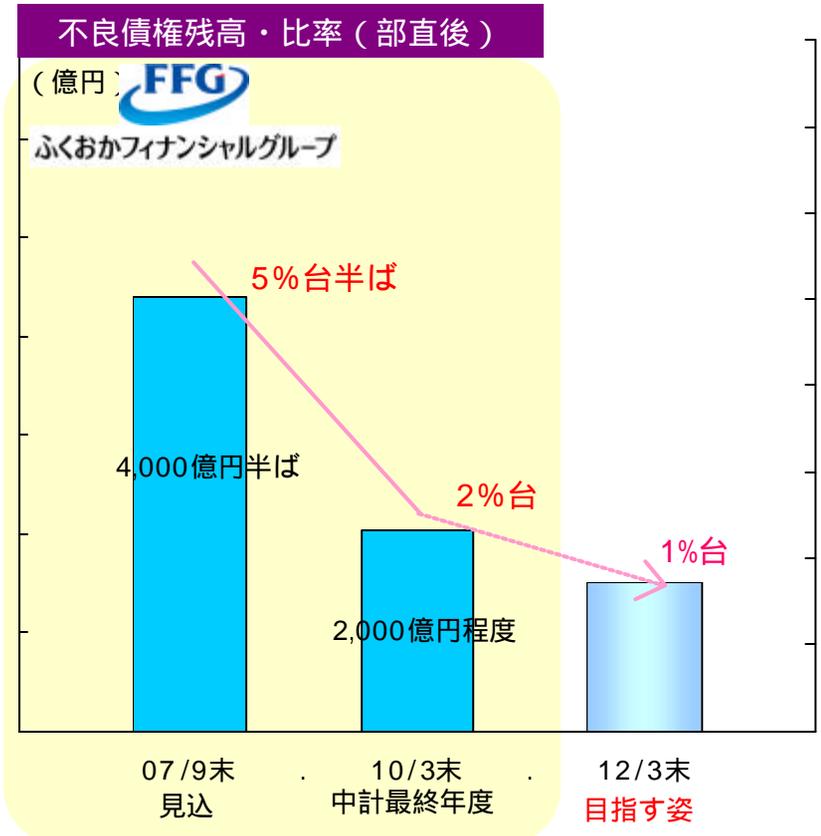
- 中計最終年度 総資産：12兆円 コア業務純益：1,000億円
- 目指す姿（5年後） 総資産：13兆円 コア業務純益：1,200億円以上



- 中計最終年度 国内貸出金：8兆3,000億円 国内預金NCD：10兆5,900億円
- 目指す姿（5年後） 国内貸出金：9兆円台 国内預金NCD：11兆円台



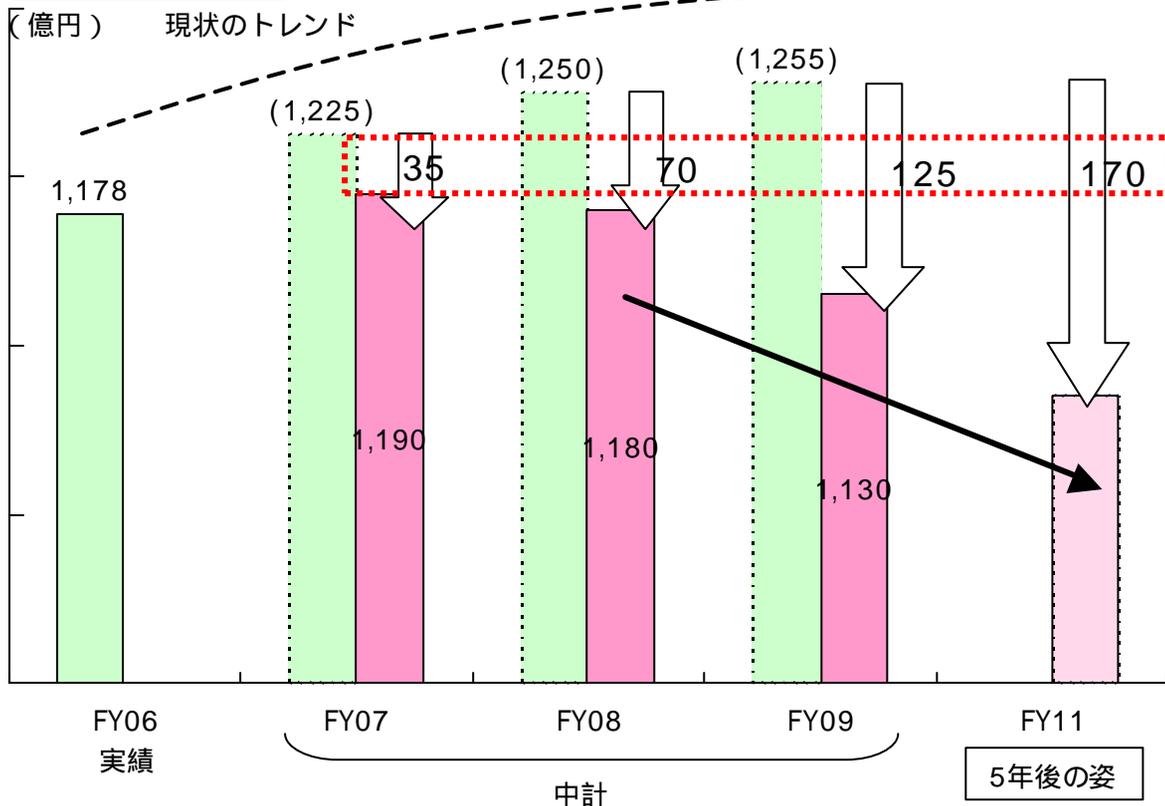
- 中計最終年度 不良債権比率：2%台 OHR：50%台前半
- 目指す姿（5年後） 不良債権比率：1%台 OHR：40%台



FFG 第二次中期経営計画 コストコントロール

- コストコントロールの重要性 統合シナジーの早期具現化と次の成長戦略への土台固め
- ストラテジックソーシングにより中計期間最終年度に 125億円の削減を実現

経費計画



【成行増加主要因】拡大に向けた成長投資
IT基盤・店舗モデルチェンジ等

グループ ストラテジックソーシング

- 3行共同調達によるスケールメリット追求
ATM、端末、委託費等
- 業務共通化・集約化によるコスト削減
メール便、事務バックオフィス等
- リソースの最適配分による効率化
本部業務集約、店舗戦略等
- グループコストの一元化

中計最終年度削減額 125億円
5年後の削減額 170億円
(現状のトレンド対比)

利益計画

(億円)

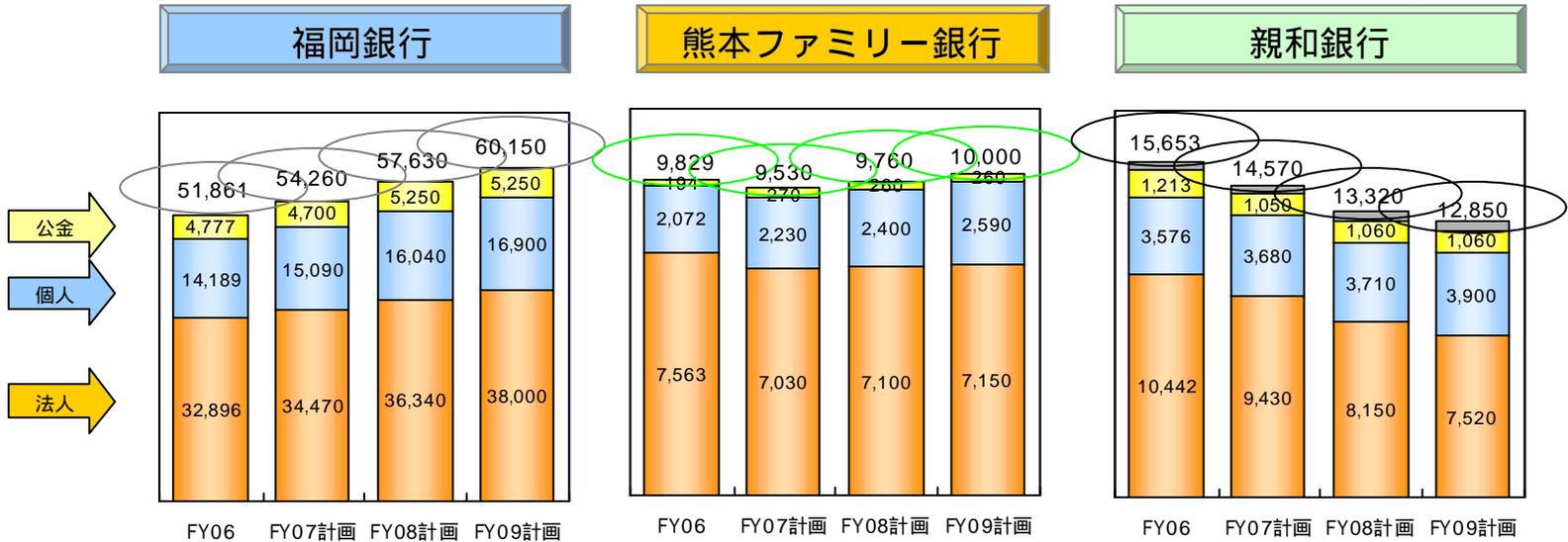
	3行合算				福岡銀行				熊本ファミリー銀行				親和銀行			
	FY06 実績	FY07 計画	FY08 計画	FY09 計画												
業務粗利益	2,121	2,003	2,090	2,130	1,302	1,332	1,421	1,459	264	262	266	274	555	409	403	397
資金利益	1,745	1,699	1,728	1,746	1,052	1,093	1,149	1,174	255	241	234	241	437	365	345	331
国内部門	1,703	1,665	1,681	1,705	1,009	1,059	1,103	1,134	255	241	234	241	439	365	344	330
国際部門	41	34	47	41	43	34	46	40	1	0	0	0	2	0	1	1
役務取引等利益	291	299	316	334	215	215	231	242	19	26	29	30	58	59	57	62
特定取引利益	24	4	2	1	24	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
その他業務利益	60	0	44	49	11	21	41	42	11	5	3	3	60	16	1	4
うち債券売買損益	44	16	0	0	2	14	0	0	13	0	0	0	59	2	0	0
経費	1,178	1,187	1,180	1,131	705	721	736	709	170	181	171	169	303	284	273	252
人件費	564	538	514	493	329	320	314	306	90	92	85	77	146	130	117	112
物件費	539	572	582	562	330	354	367	356	71	80	77	83	138	135	136	122
税金	74	77	83	75	46	47	55	47	9	9	9	9	19	19	19	19
一般貸倒引当金繰入額	23	300	0	0	23	0	0	0	67	0	0	0	67	300	0	0
業務純益	966	516	910	1,000	621	611	685	750	26	81	95	105	318	176	130	145
コア業務純益	899	832	910	1,000	600	625	685	750	106	81	95	105	193	126	130	145
臨時損益等	1,595	992	175	140	58	206	60	60	644	67	60	35	893	719	55	45
うち不良債権処理額	1,563	750	140	130	45	30	60	60	619	50	30	30	899	670	50	40
(信用コスト合計)	1,568	1,050	140	130	33	30	60	60	686	50	30	30	849	970	50	40
うち株式関係損益	2	207	0	0	11	178	0	0	15	10	0	0	2	19	0	0
経常利益	630	475	734	860	563	405	625	690	618	15	35	70	575	894	75	100
当期純利益	917	754	465	575	330	230	360	405	570	5	30	70	677	989	75	100
FFG連結当期純利益	-	310	385	500												
OHR	55.5%	50%台後半	50%台前半	50%台前半	54.1%	50%台前半	50%台前半	40%台後半	64.5%	60%台後半	60%台前半	60%台前半	54.6%	60%台後半	60%台後半	60%台前半
自己資本比率	10.06%	8%台前半	8%台後半	9%程度	11.29%	9%程度	9%程度	9%程度	6.61%	6%台前半	6%台前半	7%台前半	5.76%	7%程度	7%台後半	8%台前半
Tier 比率	6.79%	5%程度	5%台前半	6%程度	9.78%	8%台後半	8%台後半	9%程度	3.92%	3%台後半	4%程度	4%台前半	2.88%	3%台前半	4%台前半	5%台前半
不良債権比率	4.9%	4%台後半	3%程度	2%台前半	2.2%	2%程度	1%台後半	1%台前半	5.7%	4%程度	3%台前半	2%台後半	12.6%	15%台前半	7%程度	5%台後半

3行合算(18年度実績)は参考値、不良債権比率は部分直接償却後

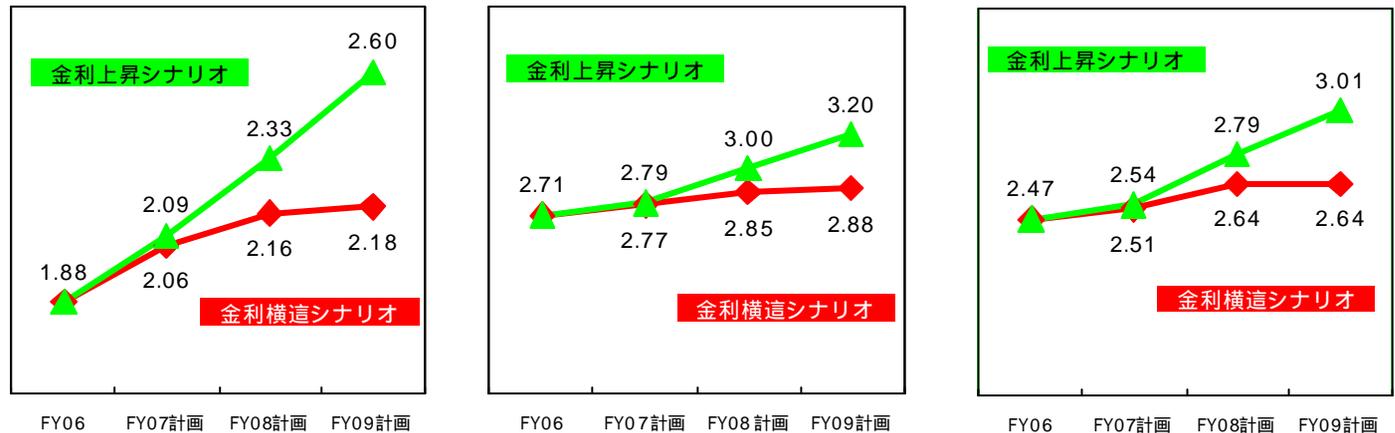
国内貸出金計画

(億円、%)

国内貸出金平残計画
セグメント別



貸出金利回り計画

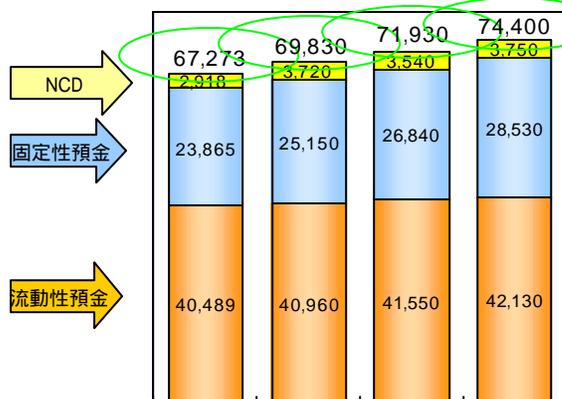


預金・NCD計画

(億円、%)

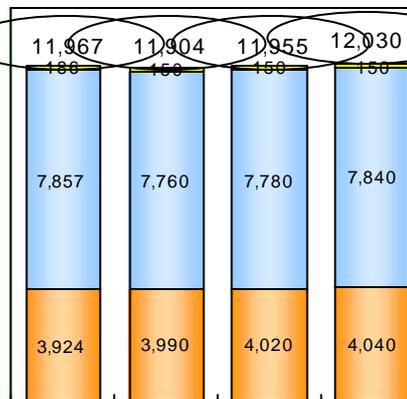
預金平
残計画
(固定・流動性)

福岡銀行



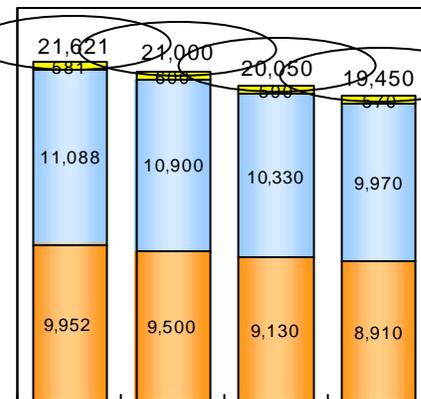
FY06 FY07計画 FY08計画 FY09計画

熊本ファミリー銀行



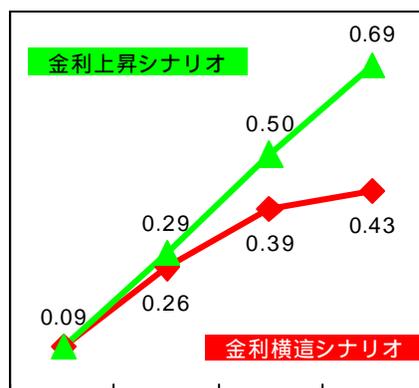
FY06 FY07計画 FY08計画 FY09計画

親和銀行

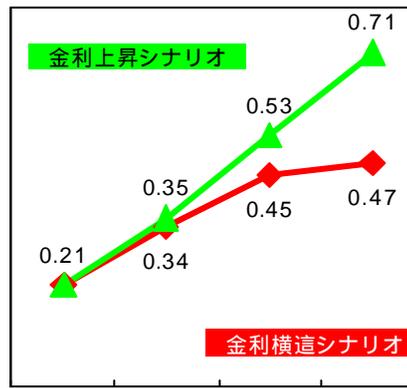


FY06 FY07計画 FY08計画 FY09計画

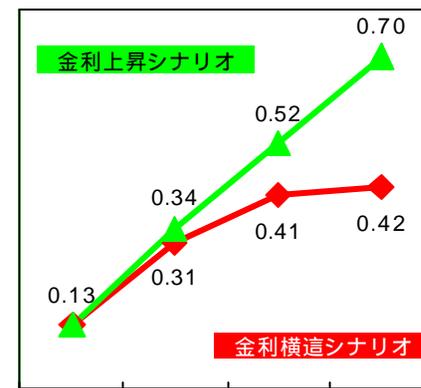
預金利回り計画



FY06 FY07計画 FY08計画 FY09計画



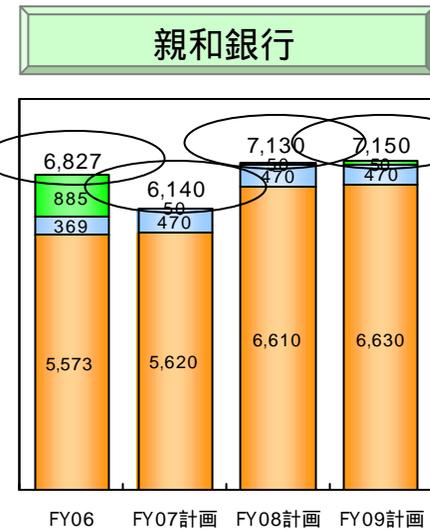
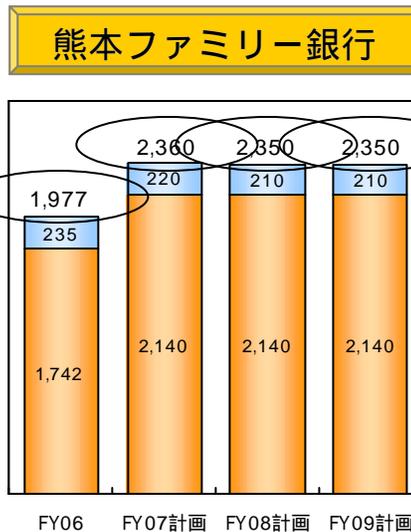
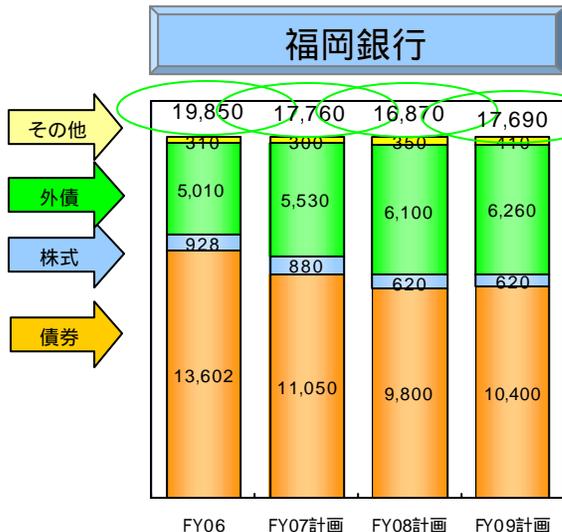
FY06 FY07計画 FY08計画 FY09計画



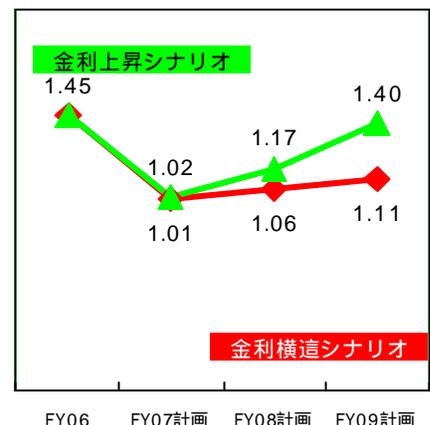
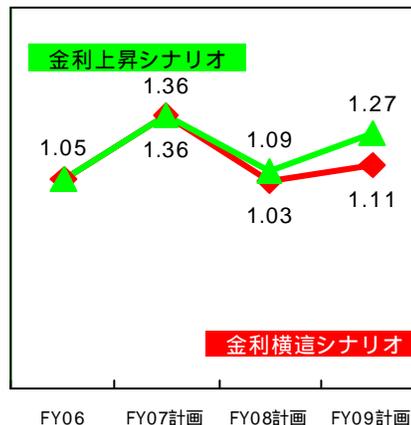
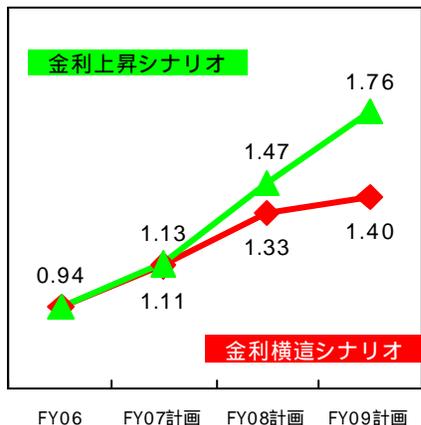
FY06 FY07計画 FY08計画 FY09計画

(億円、%)

有価証券平残計画



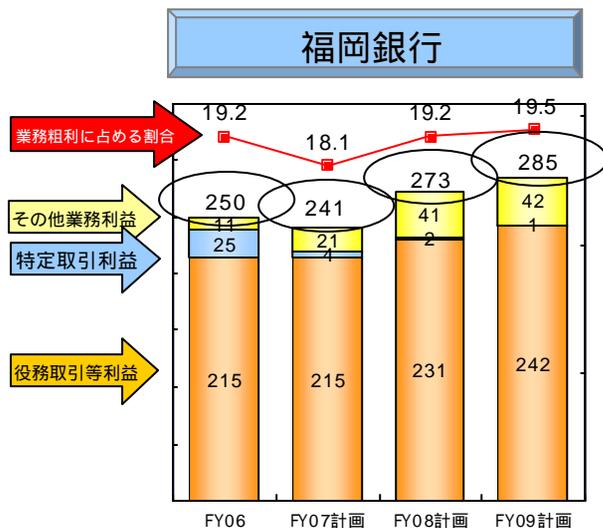
有価証券平均利回り推移



非金利収益

非金利収益計画

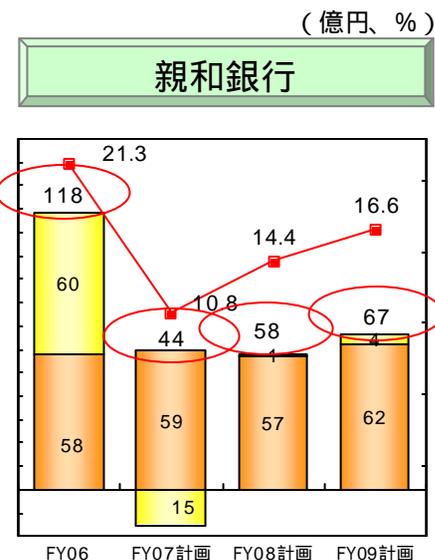
非金利収益の主要項目



	FY06	FY07計	FY08計	FY09計
投資信託	58	69	84	95
年金保険	19	21	23	26
公共債窓販	8	4	2	1
EB	10	10	11	11
シンジケートローン	3	4	4	5
M&A等フィー	1	3	2	3
内国為替	77	68	64	62
口座振替	36	36	37	37
CD・ATM	21	19	19	19
その他	28	7	28	27
合計	250	241	273	285



	FY06	FY07計	FY08計	FY09計
投資信託	4	10	13	15
年金保険	6	9	11	12
公共債窓販	0	0	1	1
EB	1	1	1	1
法人ソリューション等	1	1	1	1
内国為替	12	12	12	12
口座振替	6	6	6	6
CD・ATM	2	3	3	3
その他	24	20	17	17
合計	8	20	31	32

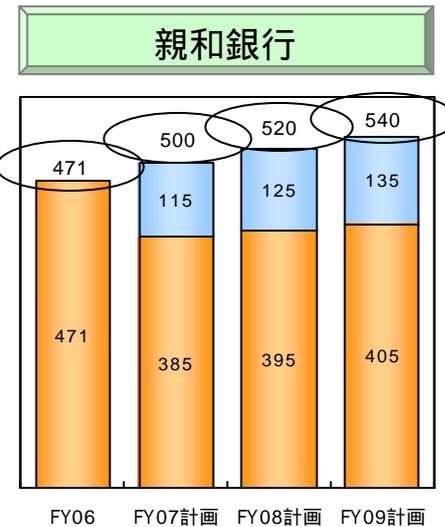
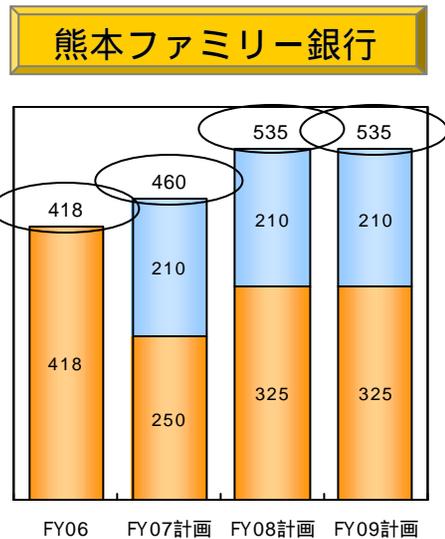
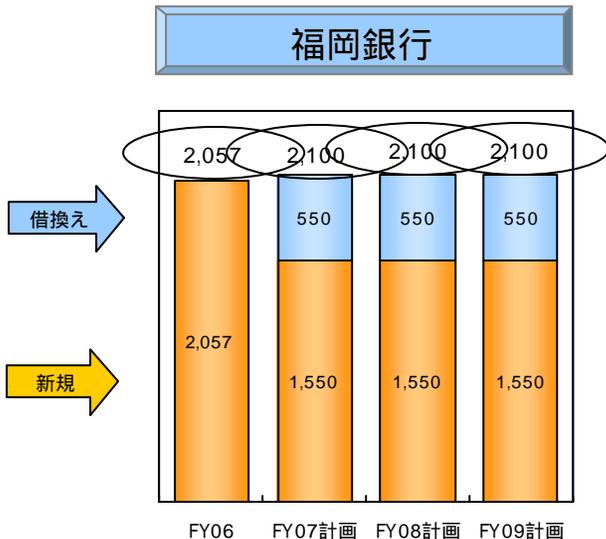


	FY06	FY07計	FY08計	FY09計
投資信託	15	17	16	20
年金保険	4	4	5	5
公共債窓販	1	1	1	1
EB	2	2	2	2
法人ソリューション等	2	2	2	2
内国為替	23	22	20	20
口座振替	9	9	9	9
CD・ATM	7	6	6	6
その他	55	19	3	2
合計	118	44	58	67

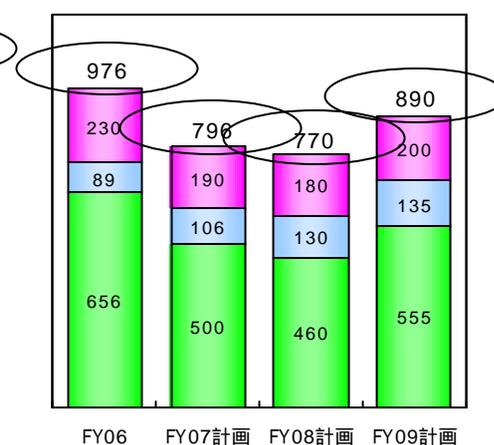
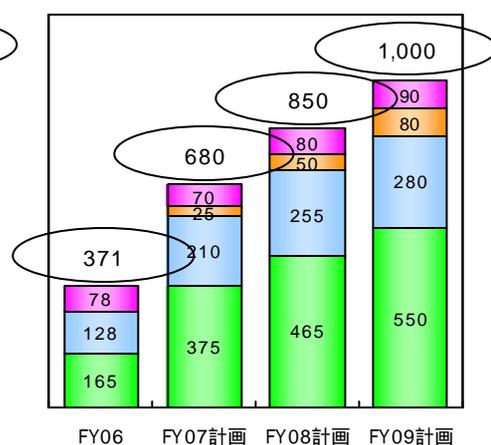
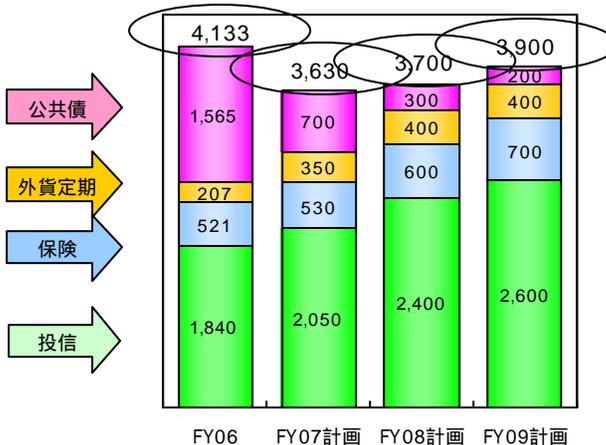
営業面の計数目標

(億円)

住宅ローン実行額
(新規・借換)

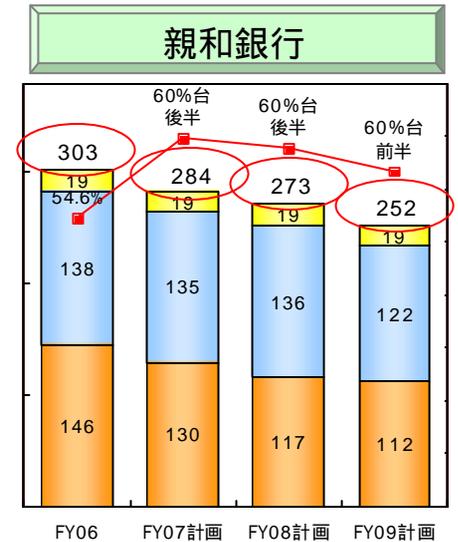
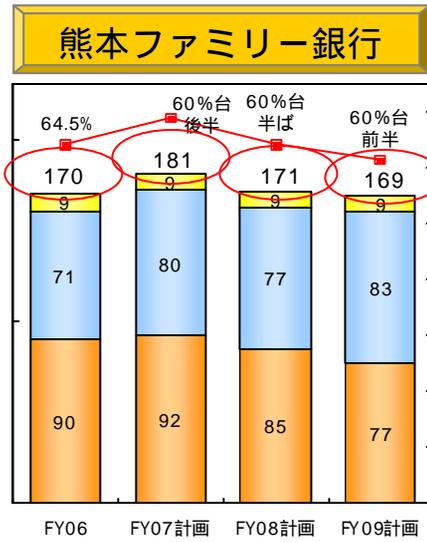
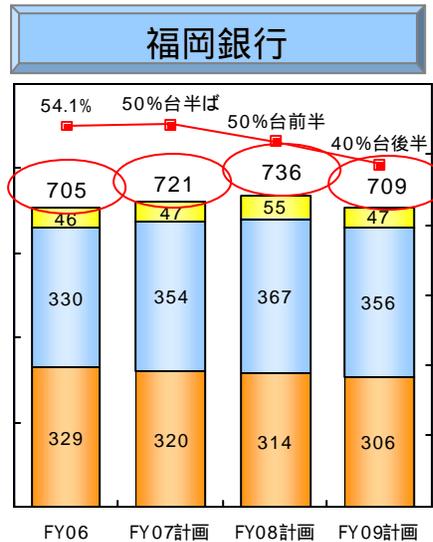


資産運用商品販売額



(億円、%)

経費計画



経費の主要項目

	FY06	FY07計画	FY08計画	FY09計画	
人件費	給与・手当	296	305	302	298
	退給費用	0	4	3	3
	その他	33	19	15	11
	小計	329	320	314	306
物件費	内部・渉外費	63	62	62	58
	不動産費	120	117	132	124
	業務委託費	86	114	126	126
	その他	61	61	47	48
	小計	330	354	367	356
税金	印紙税	18	17	16	15
	消費税	12	14	23	16
	その他	16	16	16	16
	小計	46	47	55	47
合計	705	721	736	709	

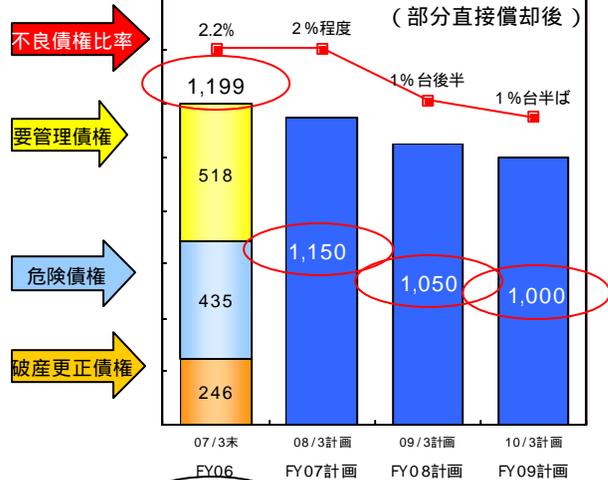
	FY06	FY07計画	FY08計画	FY09計画	
人件費	給与・手当	57	61	58	50
	退給費用	8	8	8	7
	その他	25	23	19	20
	小計	90	92	85	77
物件費	内部・渉外費	16	19	15	20
	不動産費	25	23	27	29
	業務委託費	19	28	22	26
	その他	11	10	13	8
	小計	71	80	77	83
税金	印紙税	3	3	3	3
	消費税	3	3	3	3
	その他	3	3	3	3
	小計	9	9	9	9
合計	170	181	171	169	

	FY06	FY07計画	FY08計画	FY09計画	
人件費	給与・手当	104	89	84	81
	退給費用	10	10	5	5
	その他	32	31	28	26
	小計	146	130	117	112
物件費	内部・渉外費	28	23	22	20
	不動産費	44	44	42	36
	業務委託費	45	48	52	46
	その他	21	20	20	20
	小計	138	135	136	122
税金	印紙税	6	6	6	6
	消費税	6	6	6	6
	その他	7	7	7	7
	小計	19	19	19	19
合計	303	284	273	252	

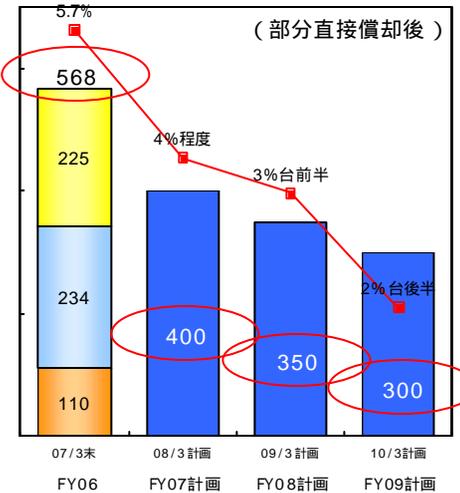
開示不良債権

(億円、%)

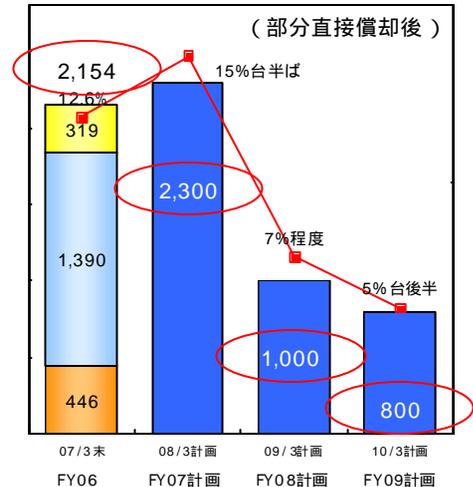
福岡銀行



熊本ファミリー銀行



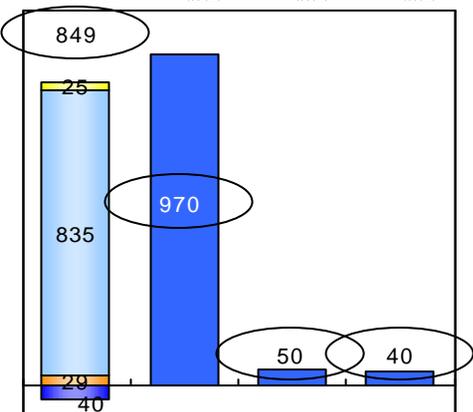
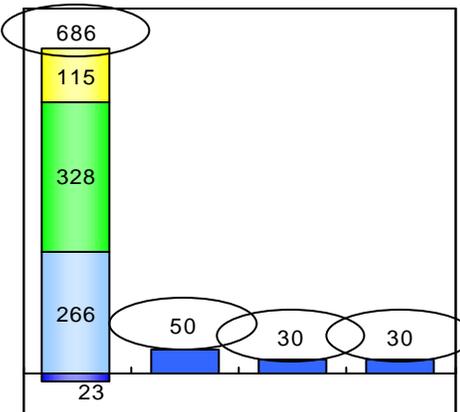
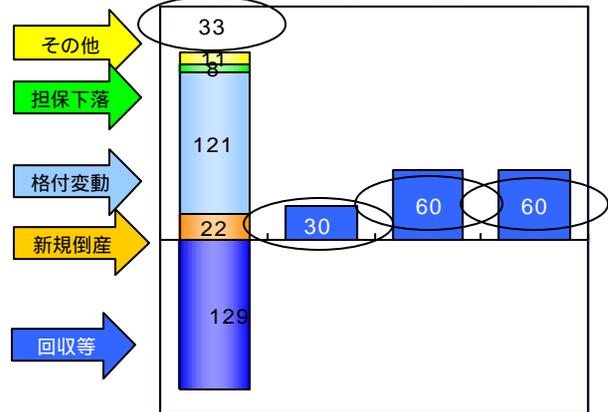
親和銀行



不良債権残高・比率

- 不良債権比率
- 要管理債権
- 危険債権
- 破産更正債権

信用コスト



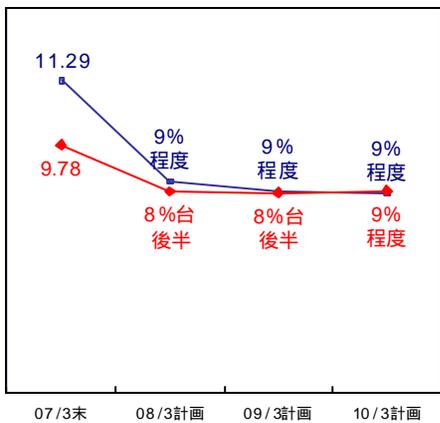
自己資本比率

(億円、%)

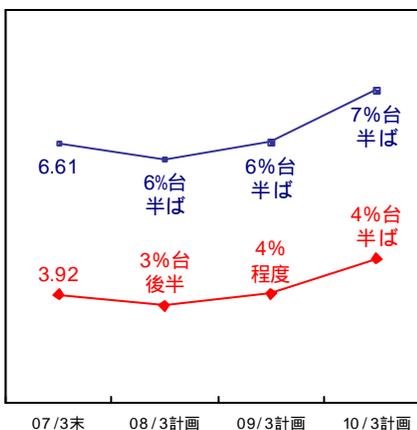
連結自己資本比率見込み

自己資本比率
Tier 比率

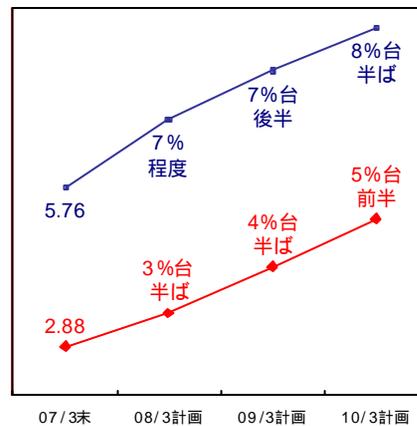
福岡銀行



熊本ファミリー銀行

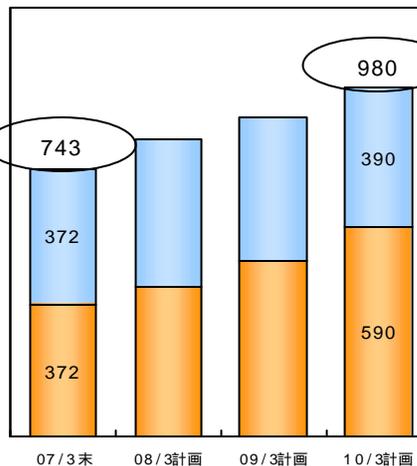
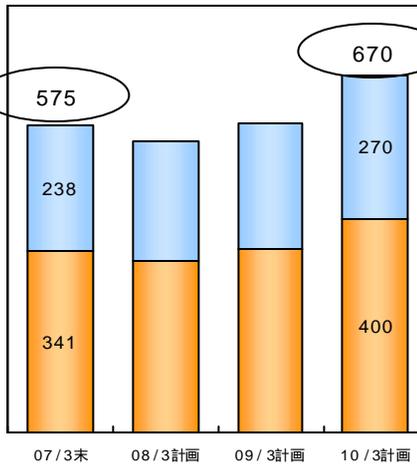
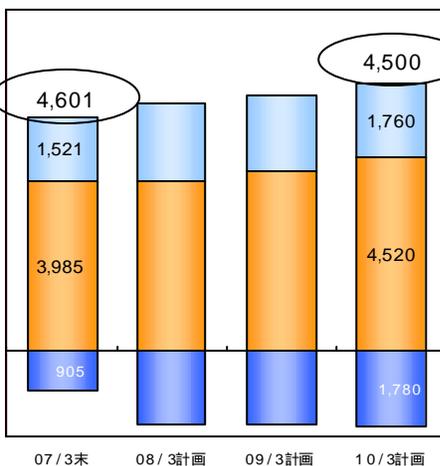


親和銀行



自己資本状況見込み

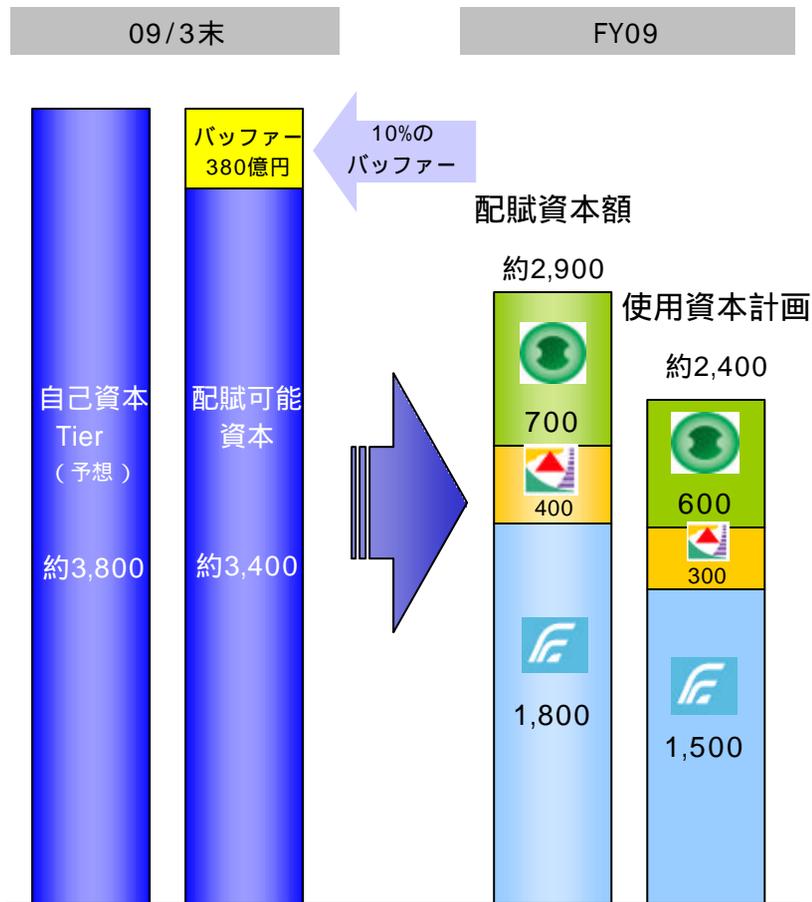
Tier
Tier
控除項目



リスク資本配賦

(億円)

リスク資本配賦 (FY09 : 中計最終年度)



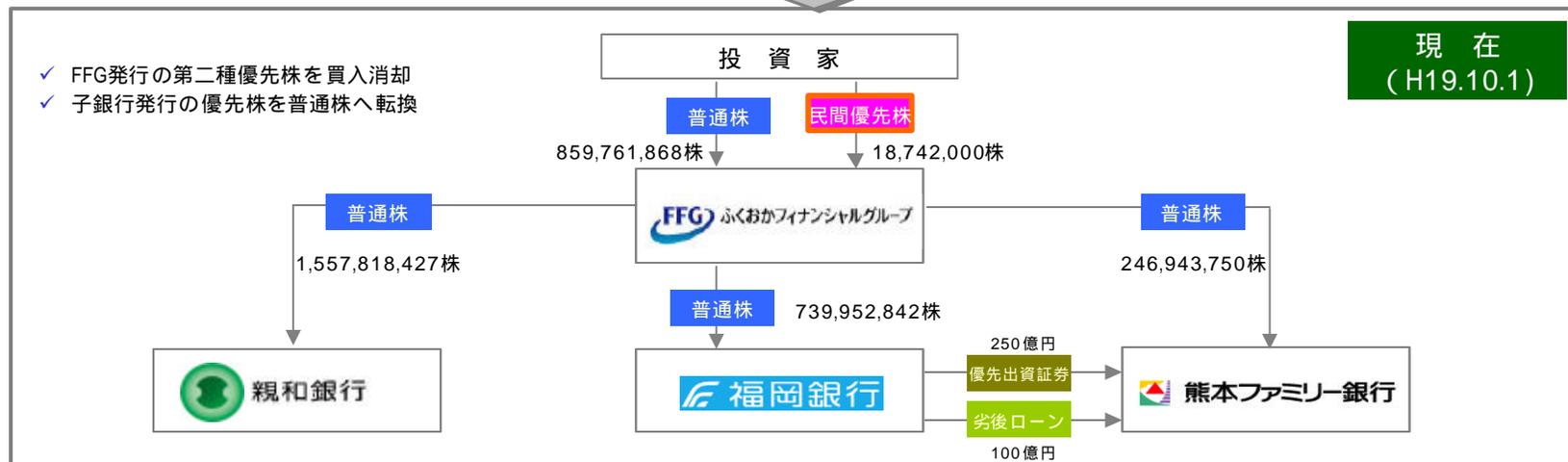
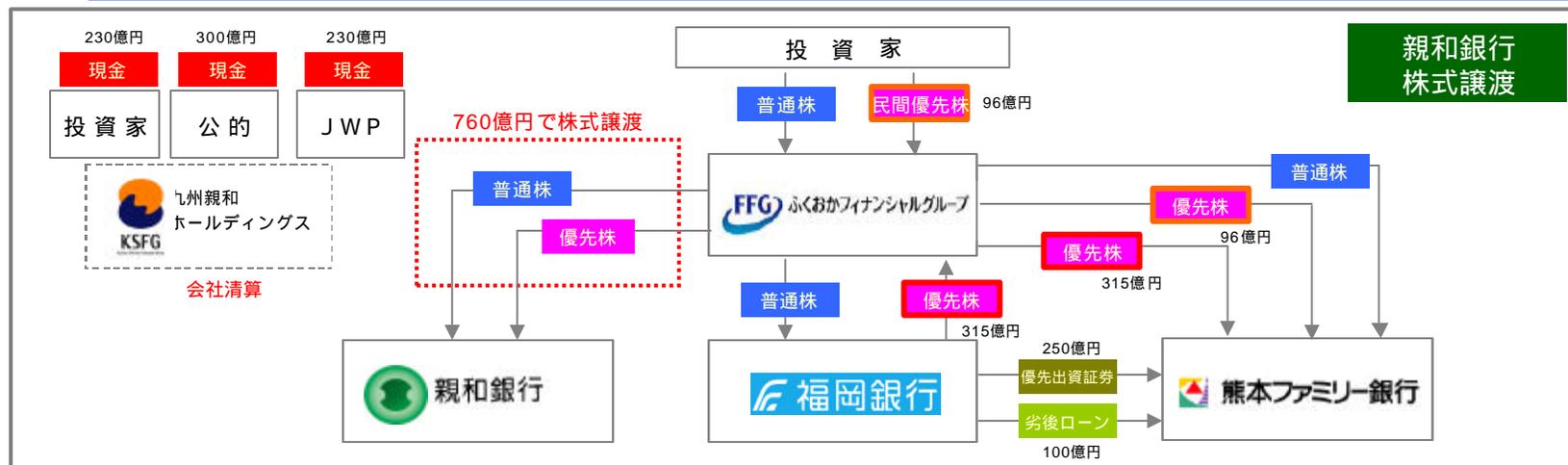
グループ配賦資本 (リスク・部門別)

	営業	国内市場	国際	本部	使用資本
					配賦資本
信用リスク	709	-	-	-	709
	810	-	-	-	810
金利リスク	-	633	88	-	721
	-	710	111	-	821
価格変動リスク	-	26	-	488	515
	-	93	-	660	753
オペリスク	-	-	-	294	294
	-	-	-	330	330
その他	-	-	-	156	156
	-	-	-	190	190
使用資本	709	659	88	938	2,395
配賦資本	810	803	111	1,180	2,904

【定義】

●経営体力	持株単体のTier
●配賦可能資本	Tier から計測不能リスクのためのバッファー10%を控除 (従来20%のバッファーのうち10%は親和銀行との経営統合で使用)
●リスク量保有期間	信用リスク：1年、金利リスク：3ヶ月、価格変動リスク【株式】：6ヶ月
●リスク量信頼区間	全ての計量化可能リスクにつき99%

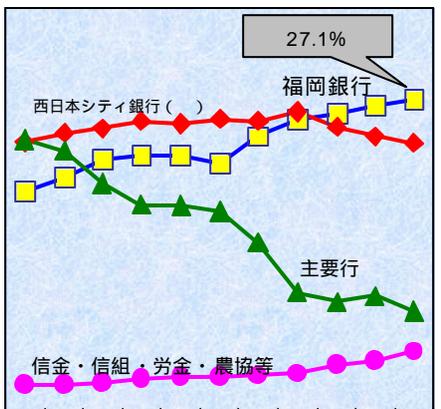
FFGの資本構成



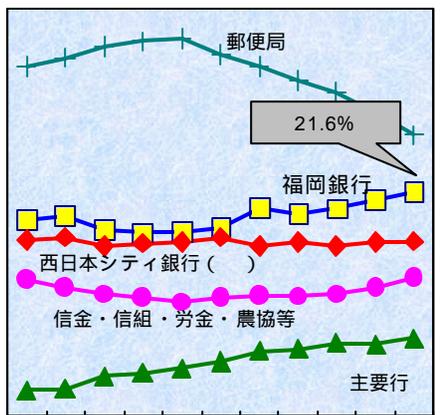
貸出金

預金

福岡県



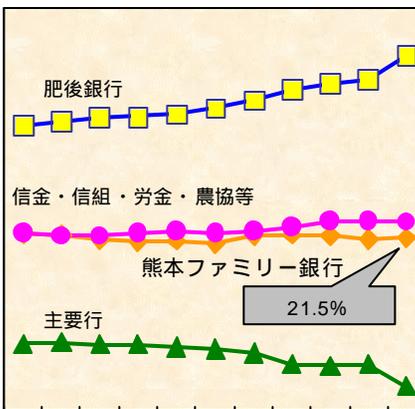
96/3末 98/3末 00/3末 02/3末 04/3末 06/3末



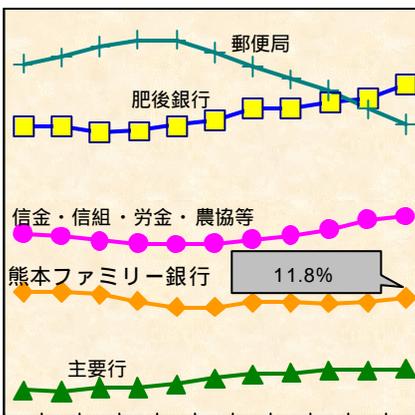
96/3末 98/3末 00/3末 02/3末 04/3末 06/3末

統合前の西日本シティは西日本銀行と福岡シティ銀行の合計

熊本県

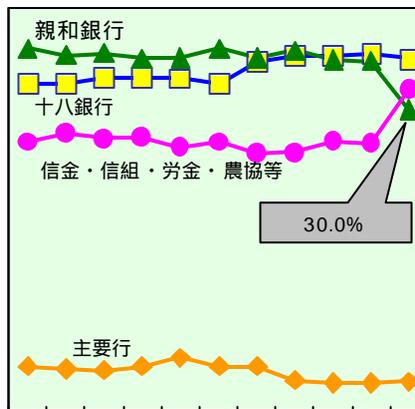


96/3末 98/3末 00/3末 02/3末 04/3末 06/3末

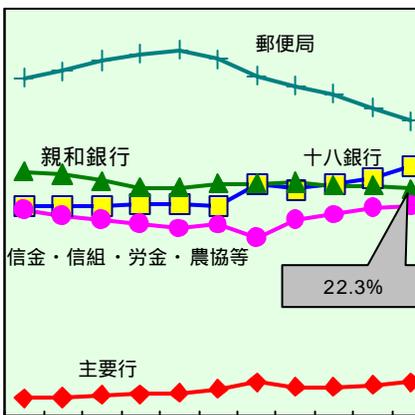


96/3末 98/3末 00/3末 02/3末 04/3末 06/3末

長崎県



96/3末 98/3末 00/3末 02/3末 04/3末 06/3末



96/3末 98/3末 00/3末 02/3末 04/3末 06/3末

データ：金融ジャーナル（全業態ベース）

Part

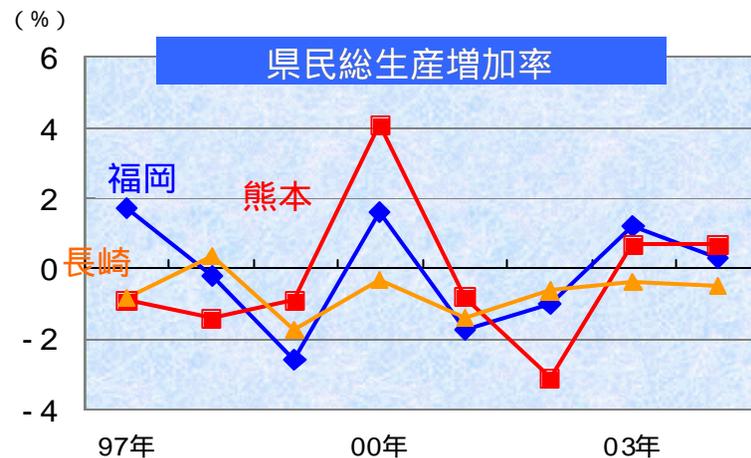
マクロ経済指標

全国・九州のマクロ経済

- 2006年度九州経済：力強い設備投資の伸びが牽引役となり、2.3%の成長率へ
- 2007年度九州経済：生産、設備投資が引き続き牽引し、1.9%成長を維持

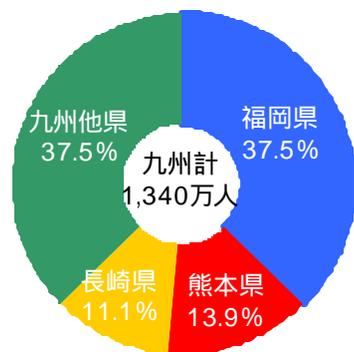
前年度比増減率		2003年度 (実績)	2004年度 (実績)	2005年度 (推計)	2006年度 (推計)	2007年度 (予測)
九州 8 県	地域内総生産	2.1	1.5	1.2	2.3	1.9
	民間最終消費支出	0.2	0.2	2.3	0.6	0.7
	民間住宅投資	2.1	1.7	0.4	3.9	1.6
	民間企業設備投資	5.8	8.5	2.6	5.9	8.5
全国	国内総生産	2.1	2.0	2.4	2.1	2.2
	民間最終消費支出	0.6	1.3	1.9	0.7	1.8
	民間住宅投資	0.2	1.7	1.0	0.4	1.5
	民間企業設備投資	6.1	6.2	5.8	8.0	4.7

出所：九経調「2007年度九州経済見通し(改訂)」

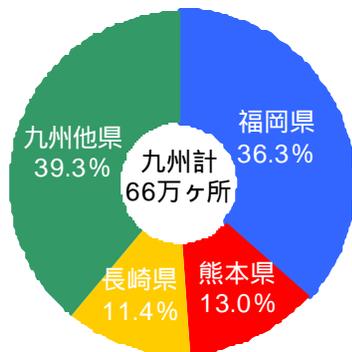


マクロポテンシャル

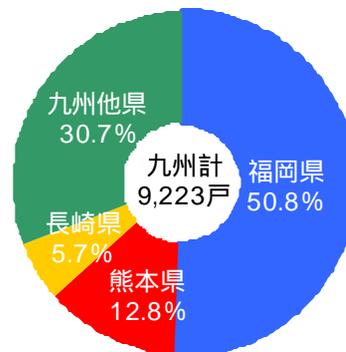
人口（06年）



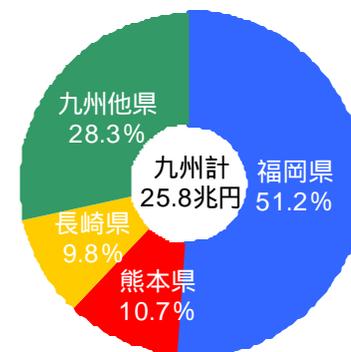
事業所数（01年）



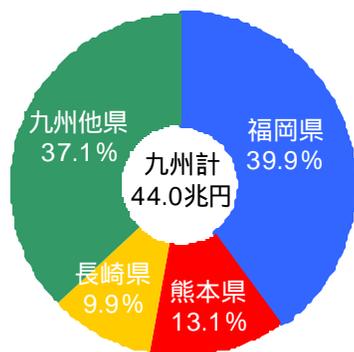
新設住宅着工数（07/2）



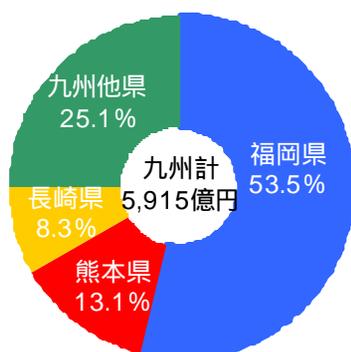
銀行貸出金未残（07/3）



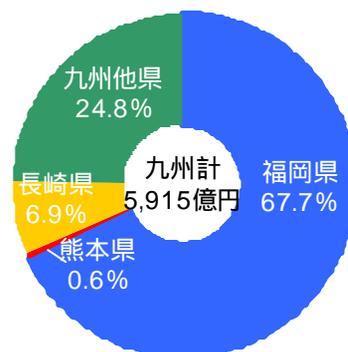
県内総生産（04年度）



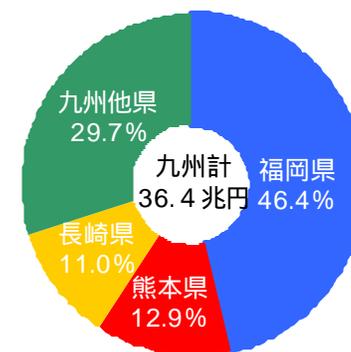
商業販売額（04年）



輸出通関実績額（06年）

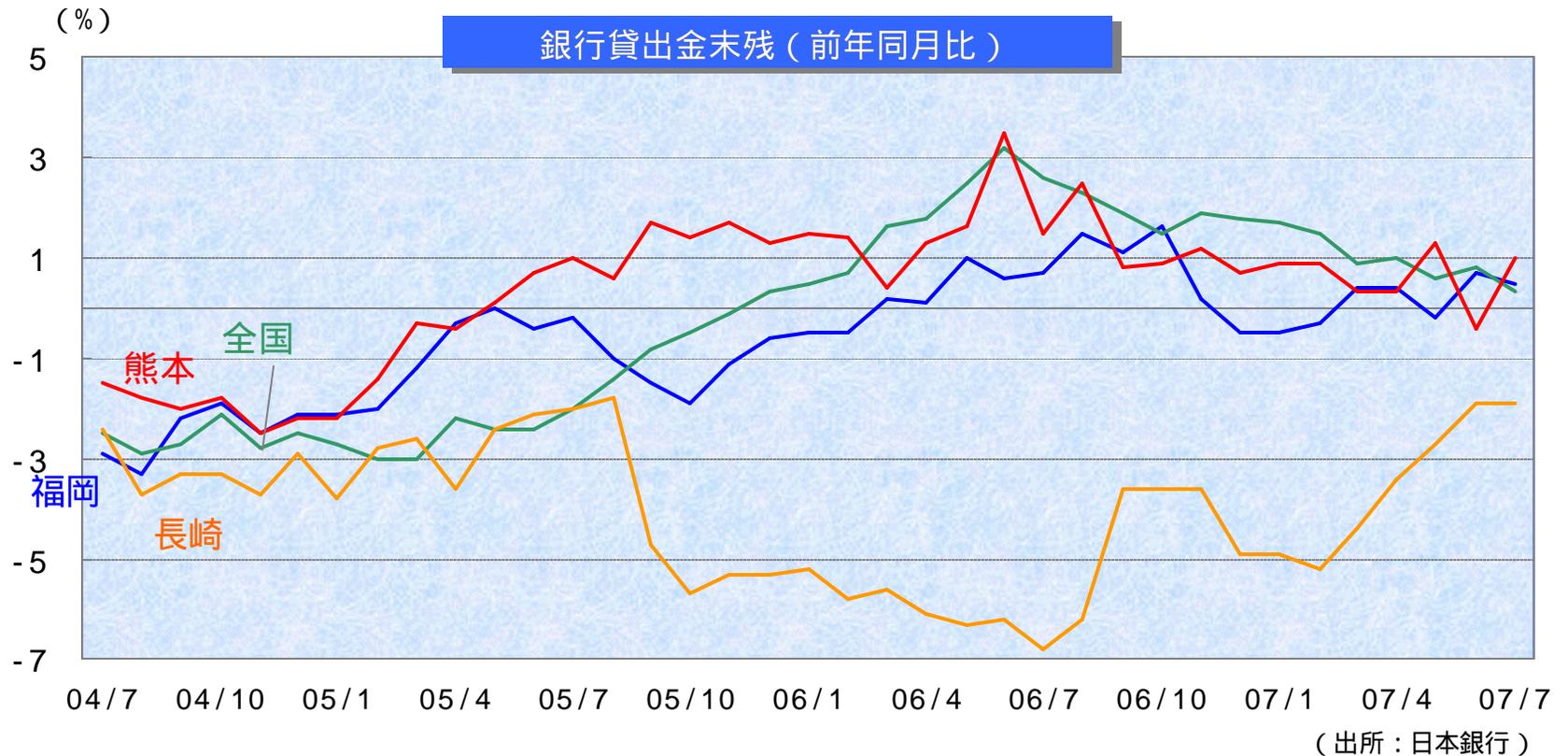


銀行預金未残（07/3）



（出所：西日本新聞社（九州データブック2007）、国土交通省、門司税関、日本銀行）

- 福岡・熊本の銀行貸出金の成長率は、全国なみのプラス年率で推移。
- 長崎県では依然貸出金ボリュームの減少続くものの、減少幅は縮小。



- 3大都市圏が牽引し、全国平均は商業地が16年ぶりの上昇。
- 福岡市では商業地が15.2%と大幅な上昇を見せたが、その他九州の都市は下落傾向続く。

<国土交通省：平成19年都道府県地価調査概括>

平成18年7月以降の1年間の地価動向は、三大都市圏においては2年連続して上昇し、地方圏においては、下落幅が縮小したものの、依然として下落地点が大半を占めた。その結果、全国平均で見ると、住宅地はほぼ横ばい、商業地は16年ぶりにわずかな上昇となった。

(国土交通省 2007年9月20日発表)

基準地価変動率

	住宅地			商業地		
	06年	07年	増減	06年	07年	増減
全国	2.3	0.7	1.6	2.1	1.0	3.1
東京	0.7	4.8	4.1	3.9	12.1	8.2
3大都市圏	0.4	4.0	3.6	3.6	10.4	6.8
福岡	3.3	2.4	0.9	3.3	0.0	3.3
佐賀	1.8	1.6	0.2	3.1	2.5	0.6
長崎	3.8	3.5	0.3	5.4	4.2	1.2
熊本	3.4	3.1	0.3	5.6	3.8	1.8
大分	3.4	3.1	0.2	4.8	4.0	0.8
宮崎	1.2	0.9	0.3	3.3	2.8	0.5
鹿児島	1.4	1.4	0.0	2.8	2.6	0.2
山口	3.4	2.9	0.5	5.0	3.9	1.1

福岡県内主要都市基準地価変動率

	住宅地		商業地	
	06年	07年	06年	07年
福岡市	1.5	0.7	6.0	15.2
北九州市	4.4	4.0	7.8	5.6

熊本県内主要都市基準地価変動率

	住宅地		商業地	
	06年	07年	06年	07年
熊本市	5.2	3.1	5.4	0.0
八代市	2.3	2.3	7.9	7.8

長崎県内主要都市基準地価変動率

	住宅地		商業地	
	06年	07年	06年	07年
長崎市	6.3	3.8	5.9	1.8
佐世保市	4.4	5.3	5.1	5.3

設備投資・住宅投資

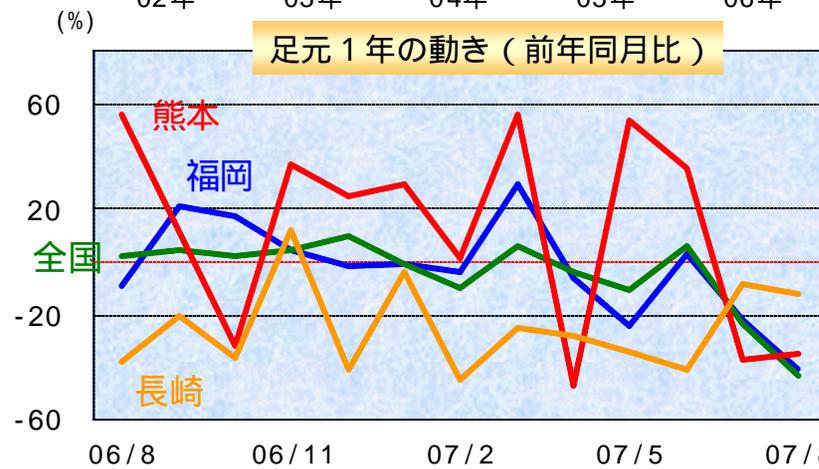
設備投資動向

(%)

	06年度実績			07年度計画		
	全産業	製造業	非製造業	全産業	製造業	非製造業
全国	7.7	12.0	4.9	11.0	13.5	9.2
九州	5.8	19.3	5.2	20.3	26.5	13.8
福岡	12.2	33.6	0.5	14.9	4.1	22.7
熊本	3.5	40.7	23.7	9.4	14.9	1.3
長崎	16.7	15.6	17.8	54.4	116.7	5.8

(出所：日本政策投資銀行「設備投資計画調査」2007年8月)

新設住宅着工数



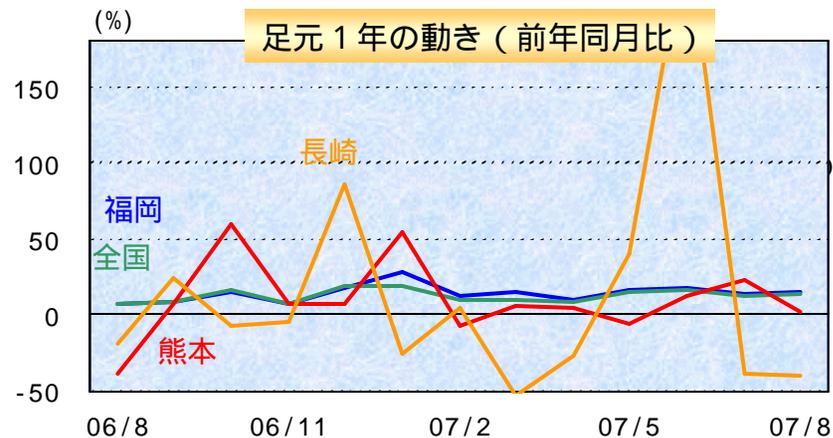
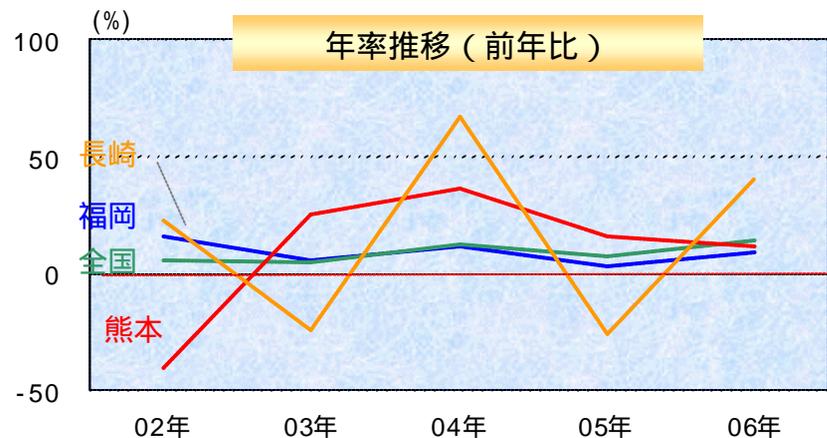
(出所：国土交通省)

鉱工業総合生産指数



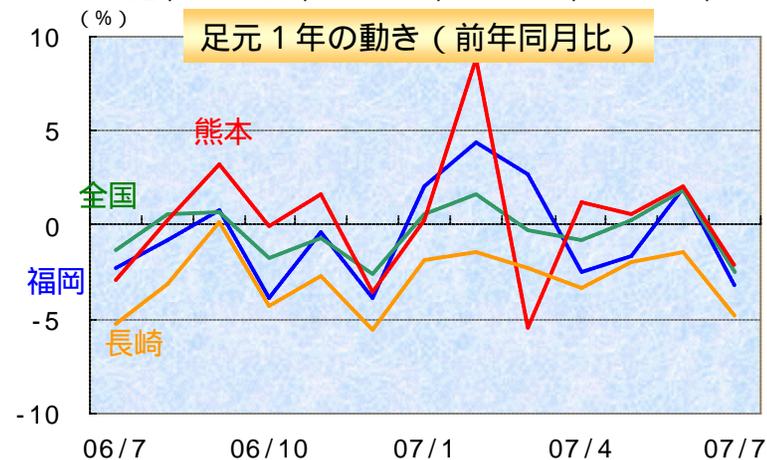
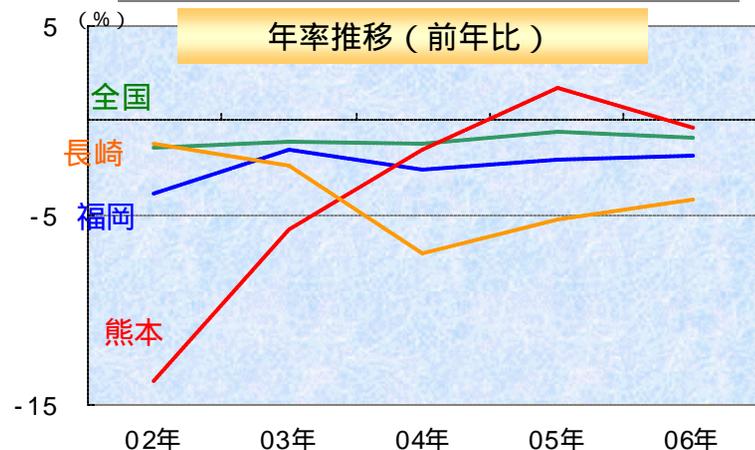
（出所：熊本のデータ、ふくおかデータウェブ、長崎県の統計）

輸出通関実績



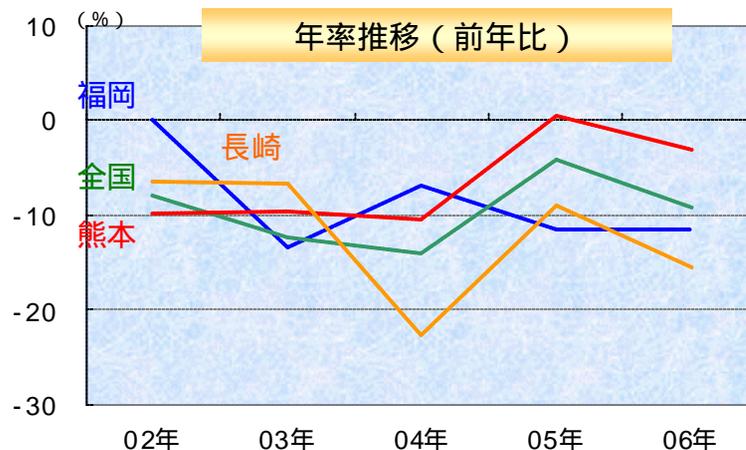
（出所：門司税関）

百貨店・スーパー販売額



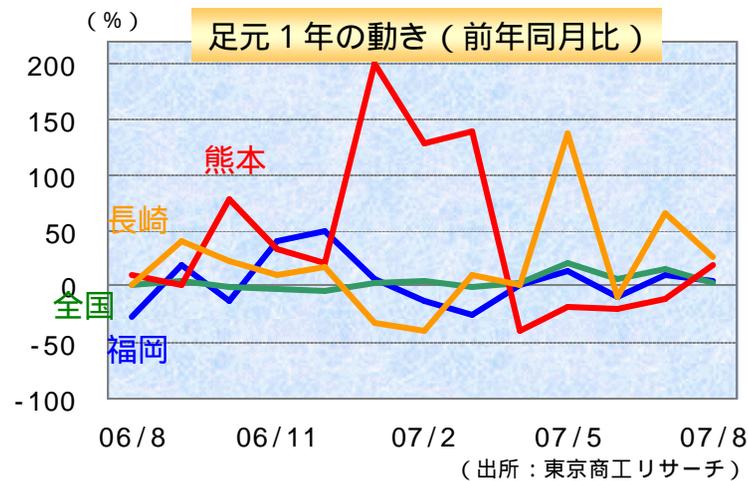
（出所：財団法人経済産業調査会・九州経済産業局）

公共工事請負額

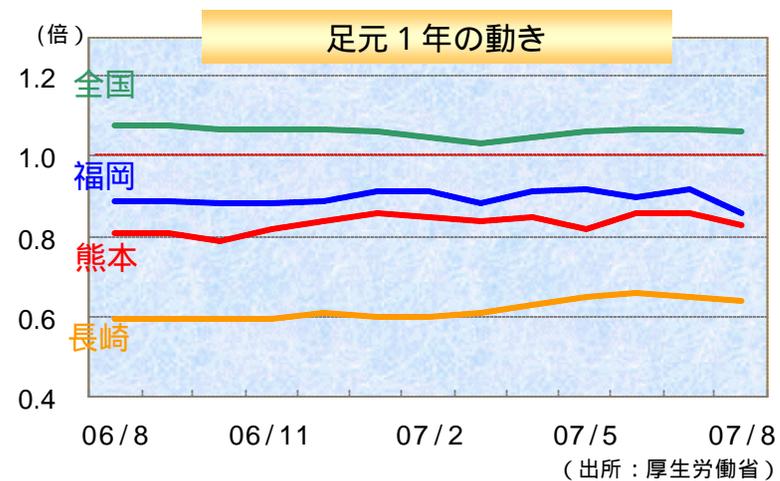


（出所：西日本建設業保証株式会社）

企業倒産件数

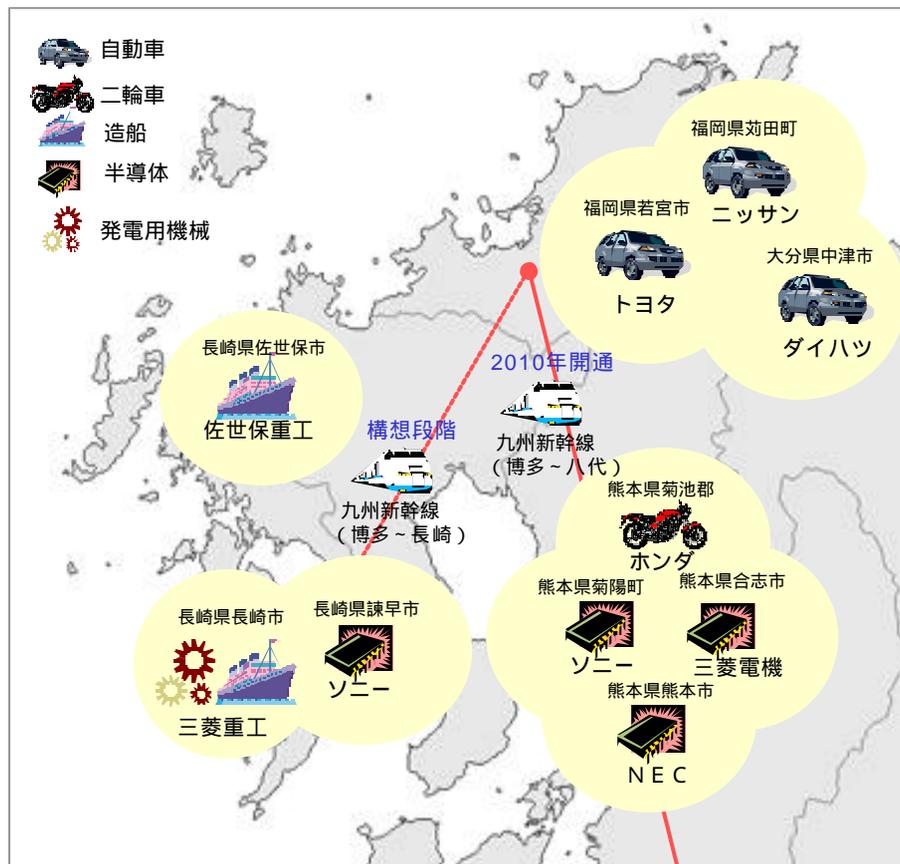


有効求人倍率

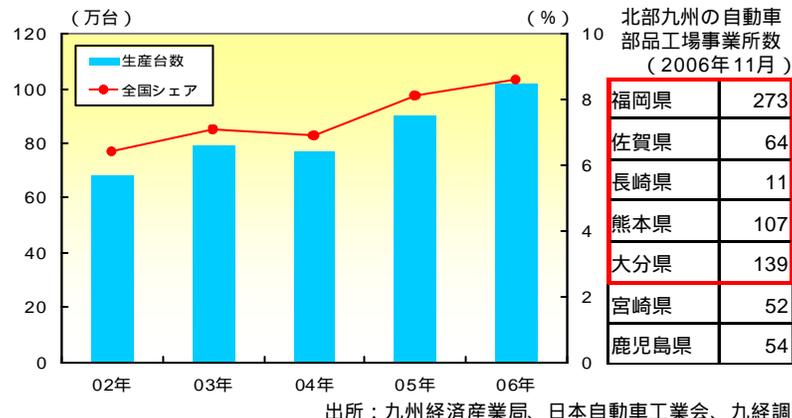


北部九州のトピックス

- 北部九州は輸送機械・半導体を中心として、生産力増強のための設備投資が活発。
- 特に自動車においては、関連産業の集積により一大生産拠点を形成しつつある。



九州の自動車生産台数



北部九州の自動車部品工場事業所数 (2006年11月)

福岡県	273
佐賀県	64
長崎県	11
熊本県	107
大分県	139
宮崎県	52
鹿児島県	54

主な自動車関連プロジェクト

プロジェクト	内容	稼働予定	
トヨタ自動車九州	小倉工場	ハイブリッド車向け部品	2008年夏
ダイハツ九州	久留米工場	エンジン工場	2008年夏
ブリヂストン	若松新工場	ラジアルタイヤ用	2009年後半
日産車体	苅田工場	設備拡張	2009年
住友金属	北九州工場	自動車用特殊鋼の新工場	2008年半ば

出所：九経調

本日の会社説明会に関するご照会先

株式会社 ふくおかフィナンシャルグループ 経営企画部

- 電話 092 - 723 - 2502
- FAX 092 - 721 - 5798
- E-mail ffg-ir@fukuoka-fg.com
- H P <http://www.fukuoka-fg.com>
- 担当者 横田、牛島、廣田、東、永吉、花田

本日は、弊社会社説明会にご参加いただきましてありがとうございます。

本日配布いたしました資料に記述されている将来の業績予想等につきましては、経営環境の変化等に伴い、予想あるいは目標対比変化し得ることにご留意ください。